チュチェ思想の原理解説 5

社会主義の強盛国家建設



社会主義の強盛国家建設

朝鮮・平壌
外国文出版社
チュチェ103（2014）年

「先軍革命の険しい未踏の道を踏み分けて民族自主の新しい紀元を開き、国の強盛・繁栄と子々孫々の幸福を保障する強固な土台を築いた偉大な金日成同志と金正日同志の聖なる革命実録と不滅の業績は祖国の歴史にとわに輝くでしょう」

金 正 恩

本書ではチュチェ思想と先軍思想が具現された朝鮮において、人類が数千年間も願い続けてきた理想、強盛の夢がどのように現実化されているかについて記述した。

幸せと強盛・繁栄という言葉を聞いただけでも胸が弾み、心が温まる。幸せになろうというのが人間の心理であるため、誰もが幸せになろうとする。

人間なら誰もが願っている幸せは、国と民族というもっとも大きな社会的集団の存亡と関連している。それは人間が国と民族という社会的集団を離れて生きられない社会的存在であるからである。

それで人々は自分たちに幸せをもたらす世界、そのような国を志向し念願してきたのである。

人々の理想郷を輪郭的に描いて見せたのが、トマス・モアの「ユートピア」とカンパネラの「太陽の都」であった。

これらはみな人々の念願と理想を素朴に反映していた。しかしいずれも現実的可能性、科学的な実現方途のない空想に過ぎず、後世に空想的社会主義と呼ばれるようになった。

歴史上には、人民の幸せと国の強盛のためだとしながら絶え間ない征服戦争で国の領土を広めたり、物質的富の創造や記念碑の建設で変革と奇跡をもたらしたりした軍司令官、政治指導者もいた。しかし彼らの意志と実践はみな、人々の幸せにたいする要求と強国建設の理想にたいする短編的な理解から出発したものであった。

幸せと強盛国家建設に対する人民大衆の本性的要求を実現することがそんなに難しかったため、ある国家指導者も人々は誰もが幸せという馬に乗りたがるが、結局は幸せという車に追っていく運命になってしまうと言ったという。

では、強国で幸せを享受しようという人民大衆の理想は到底実現不可能なものであるのか。

朝鮮での社会主義強盛国家の建設を内容とする本書を通じて読者たちがそれにたいする答え、つまり人民大衆の世紀的理想はどのように実現されるのかにたいする正解を得るようになることを期待しつつ、拙い筆力ではあるがペンを走らせた。

目　　次

「金日成同志は『以民為天』（人民を天のごとくみなす）を座右の銘とし、生涯を人民の自由と幸福のための闘争に捧げました。わたしは金日成同志の遠大な志を体して人民を天のごとく信頼し、人民のためにすべてを尽くすつもりです。富強な祖国建設と人民の幸福のためにすべてを捧げて働く、これがわたしの生の目標であり生きがいです」

金 正 日

1.「以民為天」の建国理想

読者たちは理想についてどのような理解をもっているでしょうか。

朝鮮語の字引には「理想とは人々の生活と活動の最終的目標に対するイメージ」と定義されている。

国や人によって理想にたいする見解では少しずつ差がありうるが、この定義に対してさほど大きな異議は無いだろうと思う。

人生の道を歩む人々は誰もが自分なりの理想を持ち、一生涯その理想を実現しようと頑張る。

人々の持っている理想は彼らがどういう人生観を持っているかによってその高さと価値が異なる。

個人主義的人生観を持つ人々は、一生涯、個人の身を立てて名をあげること、栄耀栄華を理想とし、その世俗的で利己的な理想を実現するために走り回る。反面、集団主義的人生観を持った人々は社会的集団のために献身しながら、集団の発展と繁栄に寄与することを理想とし、その実現のために自分のすべてをささげてたたかうようになる。

人類史上には、自分個人より先に社会的集団を考える美しい理想を持って一生涯を生きた人々が少なからず記録されている。

しかし、どの英雄豪傑も、政治指導者も人民大衆の本性的要求の実現を理想とはしていなかった。

国と民族の隆盛・発展と展望、人民の幸福は、指導者の理想と実践力に多くかかっている。

それゆえ国と民族の富強・繁栄と幸福を志向する地球上のすべての国と民族は、その志向を理想として押し立て、それを現実化しうる資質と能力を備えた指導者をおしいただこうとするのである。

数千年にわたる人類史を振り返れば、人徳により人々の追憶に残っている政治家もいれば、国と民族の発展と繁栄に寄与したことにより認められている政治家もいる。

しかしいずれも知と勇、徳をともに兼備していないため、施す政治の幅と深さ、積み上げた功績において、一国や一民族の期待に完全に応えた指導者になれなかったのである。

特に人民大衆をもっとも貴重な存在とみなし、彼らの本性的要求と理想を自分のものとして押し立てた指導者、その実現に一生涯を捧げて国と民族の限りない繁栄と人民の幸せをもたらした指導者はいなかった。

日が昇る東方の一角に位置した国－朝鮮は、人類があれほど願ってやまなかった指導者、国と民族の富強・繁栄と幸福にたいする人民大衆の志向を理想として押し立て、一生涯すべてを尽くして実現した偉大な領袖たちをいただいた恵まれた国である。

1） 主席の理想

太古の昔から輝かしい歴史を創造してきた、英知に富み才能の優れた朝鮮民族は、近代に入りながら封建政府の腐敗した統治により国力を失い始め、ついには日本帝国主義の植民地になってしまった。

外部勢力によって貴重なすべてを、甚だしくは自分の言葉や文字、名前まで奪われた朝鮮人民の境遇は実に悲惨であった。

朝鮮人民は、風前の燈のような民族の運命を救い、搾取と抑圧の無い理想社会を立ててくれる偉人の出現を切に待っていた。

そういう時期に銃剣を手にし、民族の救い手として日本帝国主義との大戦に立ち上がった方は、朝鮮人民が数千年の歴史において初めて迎え高く頂いた偉大な金日成主席であった。

人民大衆をもっとも貴重で有力な存在とみなし、彼らの自主的要求を実現する道をもっとも正しく照らすチュチェ思想を創始した金日成主席は、白頭の密林の中で初の革命的武力である朝鮮人民軍を創建し、抗日の血戦万里を踏み分けながら奪われた国を取り戻した。

解放された祖国で金日成主席は抗日革命闘争の時代から温めてきた崇高な理想、人民が国の主人となって世に羨

むことなく暮らす富強な国を建設する志をもって、進歩的民主主義の道を歩み、その過程で人民に真の自由と権利、幸せな生活を保障する人民民主主義共和国を打ち立てた。

共和国が創建されたことにより、朝鮮人民は史上初めて国家と社会の真の主人となり、国の富強・繁栄と人民の幸福を実現しうる万年の土台を持つようになった。

アメリカ帝国主義が強要した祖国解放戦争（1950～1953）は、祖国と人民の運命を分かつ厳しい戦いであった。祖国と人民の運命を一身に担い、戦争の勝利のために卓越した戦略と戦術を示しながらも偉大な金日成主席は富強な祖国を建設する構想をめぐらし、それを実現する準備をした。

祖国の遠い将来を見通して、一人の戦闘員が貴重であったその時に、大学生を戦線から召還して勉強を続けさせ、戦火の中でも白頭高原の開墾を始め、戦後復興建設の設計図も完成するよう導いた。

万民が羨む全般的無料治療制が祖国解放戦争の最中に実施されたという一つの事実からも、主席の人民愛の熱度、富強な祖国建設にたいする雄志を実感することができたであろう。

戦争の真っ最中であったある日、外国のある記者が取材のために最高司令部へ行ったことがあった。

アメリカ帝国主義の大規模の「新攻勢」と関連して、今後戦争の展望がどうなるであろうかというのが彼の関心事であった。

しばらく待ってから主席の部屋に入ってみると主席は何

かを見ており、その前に一人の兵士が立っては何かを話していたのである。

案内する人が今、最高司令官同志が兵士の学習検閲をしているとささやくのである。主席が戦後復興建設のために勉強させる人々をその時から準備させていたのである。驚いた。彼は足音を殺して静かに部屋を出てきた。取材する必要が無かったからである。

年少な共和国が力に余る戦争を行い、その運命を全世界が憂慮している時、最高司令官は勝利を確信して富強な祖国建設の雄大な目標をめがけて大きく踏み出していたのである。

百戦百勝の知略と鋼鉄の意志、人民に対する熱い愛情と彼らの尽きない力に対する確信を持ってアメリカ帝国主義の武力侵攻から祖国を守りぬいたのは実に、金日成主席が祖国のために積み上げた今ひとつの偉大な業績である。

一世代に二つの帝国主義を打ち倒した偉大な金日成同志は、人民大衆中心の強力な社会主義国家建設を一生の目標とし、その実現のために不眠不休の労苦を捧げた。

主席はチョンリマ(千里馬)運動で社会主義革命を成功裏に遂行し、東方で始めて搾取と抑圧のない社会主義国家を樹立した。

人民大衆があらゆるものの主人となり、すべてが人民大衆に奉仕する社会主義国家を樹立した主席は、社会主義朝

鮮が自主で尊厳が高く、自立、自衛で強固である強国に発展させようとあらゆる心血を注いだ。

金日成主席は次のように述べている。

「われわれは社会主義建設で提起されるすべての問題を自主的立場と創造的立場に立ってわれわれの方式で解決し、自力更生、刻苦奮闘の革命精神を発揮し、戦後の廃墟のなかからこんにちのような社会主義強国をうち立てました」

偉大な主席はどの時代にも、どの国にもみな当てはまる革命の公式や処方箋などありえないといいながら、既成の理論や公式にこだわらず、外部勢力の圧力と懐柔欺瞞にも揺るぎ無く国家と人民の利益、革命の利益を第一位におき、生涯を通して自主の政治を行ってきた。

常に人民の中に入って彼らと膝を交えて政事を論議し、彼らの意思と要求を反映し朝鮮革命の利益に即して路線と政策を打ち出した。

革命発展と情勢の要請から経済建設と国防建設並進路線を打ち出し、国の自主権守護と強固な平和をめざす自衛的国防力の強化に力を入れて強力な軍事力を建設し、国を鉄壁の砦に転換させた。

戦後 14 年という短い期間に社会主義工業国家を立ち上げ、経済構造と原料、燃料、技術問題を主体的立場で解決するよう導いて自立経済のしっかりした土台を築き上げた。

自立経済を建設する過程にはこういう話もあった。

経済を発展させるために一部の幹部たちが主席に世界的趨勢に合わせて原油に基づく経済発展計画を作って報告したことがあった。

そのとき主席は原油の出ない朝鮮で原油を原料、燃料とする経済を建設しておけば経済がおのずと自立性を失うようになる、国に豊かな資源に基づいて経済を発展させなければならないと言った。主席の教えどおりにした結果、朝鮮は1970 年代に全世界を襲った原油危機の影響も受けず、世界的な経済波動にも微動だにせず、自己発展の道を歩んでくることができたのである。

千里慧眼の英知と非凡な洞察力を所有し、「以民為天」を座右の銘としていた主席は、自主の政治、愛の政治を施すことによりチュチェの社会主義朝鮮の一大全盛期をもたらした。

偉大な金日成主席はいつか外国のある人士と会った席上で、私のもっとも大きな喜びは人民大衆の愛と信頼の中で生きることであり、私の生き甲斐は人民大衆に献身的に奉仕することであると言った。

人民を天のごとくみなした主席は、富強な祖国で人民に幸せな生活を享受させようという遠大な志と理想を持って一生涯を尽くしてきた。常に人民の中にいながら進むべき道を示し、人民の幸せのために 80 の高齢にも工場や農場を弛みなく現地指導した主席の献身的労苦によって朝鮮に強力な社会主義国家が立ち上がるようになった。

2） 総書記の理想、明確な建国目標

富強な祖国建設、これは偉大な主席の理想であると同時に敬愛する金正日総書記の理想であった。

社会主義朝鮮の始祖である偉大な金日成主席を思いがけなく亡くした 1994 年の最後の日、金正日総書記は、主席は一生涯人民の自由と幸せのためにあらゆる労苦を捧げてきた、祖国をより富強にすることは主席の意志であり偉業であった、わが国、わが祖国をより富強にしようというのはわたしの確固たる決心であると言った。

1995 年の新年の初日、雪に覆われた小松林の軍営に対する現地視察を終えた総書記は、わが国、わが祖国を世界でもっとも富強で住みよい人民の楽土、社会主義強国に作るのが自分の理想であり決心であるといった。

偉大な総書記が一生涯持っていた理想は、ある時点で瞬間的に形成されたのではない。

総書記は早くも幼年時代から祖国と人民に対する崇高な愛情から出発して祖国を輝かそうという遠大な構想を抱いていた。

解放直後幼い総書記は抗日の女性英雄金正淑女史と一緒に清津の浜辺へ行ったことがあった。壮快な日の出を眺めていた総書記はお母さんに世の中を明るくしてくれる日が大

好きだと言った。

　金正淑女史はそう言う息子に太陽は万物に光と生命を与える、陽光がなければこの地上のすべてのものが生きていけない、それで世の中で一番温かく偉大なものを太陽に例えている、朝鮮人民は国を取り戻し、明るい未来を示している金日成将軍を民族の太陽として仰いでいると言い聞かせた。

　お母さんの話を注意深く聞いていた幼い総書記は、朝鮮を太陽の国、すべての人が明るく笑いながら暮らす、一番いい国に作り上げると真摯に答えたのであった。

　このように総書記は幼い時期から国と民族のために大きな抱負と志を涵養してきた。

　金正日総書記は1960年9月1日、金日成総合大学に入学しながら、龍南山の頂に上り、朝鮮を末永く輝かしていこうという決意をこめて「朝鮮を輝かさん」という詩を詠じた。

朝日のぼる　龍南山の頂に立てば
三千里祖国の山河　胸に迫る
ここで　領袖の思想を学び
朝鮮革命の　主人となろう
ああ　朝鮮よ　その名を輝かさん

偉大な領袖を　高く仰ぎ
チュチェの道を　進みゆく

嵐も荒波も押し分けて
朝鮮の未来を築きゆこう
ああ　朝鮮よ　その名をとどろかさん

…　…　…

総書記がその日に詠じた詩「**朝鮮を輝かさん**」は、総書記の崇高な理想の歴史的宣言とも言える。

希世の偉人たちである両親から愛国、愛民の魂をそのまま受け継いだ総書記のこの理想は、偉大な愛国的闘争である抗日革命戦争と祖国解放戦争の戦火の中で大きくなり、戦後復興建設と社会主義革命、社会主義建設に直接参加した体験の中でもっと昇華され、意志として固くなった。

総書記の愛国、愛民の崇高な理想と意志は去る世紀の60 年代と 70 年代、80 年代の社会主義建設に対する優れた指導によって現実となり、朝鮮には社会主義の楽土が建設されるようになった。

人民大衆中心の社会主義社会で党と領袖の周りに固く団結した人民の尽きない力によって国の威力が全面的に打ち固められ、人民が営む生は高価で張り合いのあるものとなった。

朝鮮人民は国家と社会の主人としての高価な生と、税金撤廃、無料教育、無料治療など、日に日に増えていく社会的施策、大きくなっている幸福に満足していた。彼らは偉大な総書記が抱いている祖国繁栄と人民の幸せに対する理想の

高さを全部は知らずにいた。

1999 年 1 月 1 日、偉大な総書記は新たな水準の明確な国家建設目標、社会主義の強盛国家建設の目標を提示した。

社会主義の強盛国家建設の目標は、愛する人民を世界の舞台に堂々と出現させようとする偉大な総書記の崇高な理想の結晶体であった。

偉人の高さはその理想の高さであり、理想の高さと崇高さはその現実性、科学性によって規定される。

強盛国家建設に関する総書記の理想は、チュチェの祖国、金日成民族の繁栄と人民の幸せな未来を志向しており、現実的可能性と科学的方途に基づいていることからして最も崇高な理想となる。

総書記は朝鮮が特殊な環境にあったもっとも厳しい時期に偉大な金日成主席の志を体して社会主義の強盛国家を建設する構想をめぐらし、その準備を整えてきた。

20 世紀の末、歴史舞台ではマルクス主義を教条的に対し、甚だしくはその革命的真髄を拒否して修正主義政策を実施していた旧ソ連と東欧諸国で社会主義が幕を下ろす悲劇が生じた。

社会主義が出現した瞬間から数十年間、莫大な人的、物的資源を消費しながらそれと対決してきたアメリカ帝国主義をはじめとする反動勢力の魔手が、今度は自主の赤旗を靡かせている社会主義朝鮮に伸ばされた。

冷戦時代の対決構図がソ米から朝米に変わり、国際警察のように振舞うアメリカ帝国主義を頭とする帝国主義連合勢力の対共和国圧殺の度数はかつてなく強まった。

社会主義朝鮮の始祖、民族の慈父であった金日成主席を亡くした痛恨事の後の帝国主義連合勢力の対共和国圧殺策動、何年間も続く自然災害、社会主義市場の崩壊などにより朝鮮人民は生死存亡の危機に直面するようになった。

こうした時に、偉大な総書記は銃剣を捉えて帝国主義と対抗し、祖国と人民の運命を守りぬく大死一番の意志を持って先軍政治を全面的に実施したのである。

祖国と人民に対する高い責任感と決死の意志、超人間的な献身で試練と難関を掻き分けていく総書記の姿は、軍隊と人民の心に民族の太陽として、父親の姿として深く刻み込まれるようになった。

総書記の先軍指導の下に苦難の行軍、強行軍を乗り越えながら朝鮮の政治的・思想的威力、党と領袖を中心とする軍隊と人民の一心団結はより強化され、いかなる力をもってしても壊すことのできない不敗のものとなった。

偉大な総書記は人民軍部隊と国防工業部門を絶えず訪ねて軍力を非常に強化した。これとともに千里慧眼の非凡な英知と優れた指導力で人民経済の各部門の活動を現地指導し、経済建設と人民生活で新たな飛躍を起こしうる土台を築いた。

銃剣で国と民族の自主権を守り抜き、その繁栄の道を開いていく独特な先軍政治を施すことにより、世界の人々も認めているように朝鮮の政治的・思想的威力と軍事的威力は、強国の水準に達し、後残っている経済強国建設も時間の問題となった。

先軍革命の道で何年間も厳しい闘争を行って富強な祖国建設のしっかりした跳躍台を作り上げた結果、社会主義強国を建設することは近い将来に実現しうる現実的に可能なこととなった。

可能性がすなわち現実性となるのではない。

現実的条件を最大限に利用して最短期間内に強盛国家建設偉業を実現するためには、その実現を裏付ける科学的な方途を持たなければならない。

強盛国家への近道は何か。

それはもっとも短い歴史的期間に大きな生活力を発揮した先軍の旗を変わりなく掲げ、金日成民族の最強の武器である精神力を発揮させ、すべての分野で最先端を突破することであった。

いかなる大敵も手出しができず、全人民が何の心配もなく幸せに、豊かに暮らす社会主義の強盛国家を建設しようという偉大な総書記の理想は、このように未来志向的で現実的可能性と正しい方途にもとづいている科学的な理想である。

それでは朝鮮人民が長い歳月にわたって抱いてきた、強

盛・繁栄の夢、領袖の理想、総書記の理想の結晶体である社会主義の強盛国家とはどういう国なのか。

「社会主義強盛大国の建設は、わが共和国を不敗の政治・軍事大国に、隆盛、発展する経済強国にし、人民にこの世にうらやむもののない豊かな暮らしをさせる壮大かつ誇るべき事業です」

金 正 日

2. 強盛朝鮮の姿

今日、世界の多くの人々が朝鮮人民の建設する強盛国家がどういう国であるかについて深い関心を示している。

帝国主義連合勢力のあくどい封じ込めの中にある小さな国、強敵と対抗して来ながら乗り越えてきた苦難も少なくないが、これからの試練と難関もまた多い朝鮮が果たしてどのように強盛国家を建設するだろうか。

既存の観念から人口数や領土の大きさ、経済発展水準と軍事力などを尺度にして大国の表徴を論ずる人々は、朝鮮の強盛国家建設の目標を理解し難いであろう。十分ありうることである。

読者にあらかじめ言っておきたいことは、朝鮮人民が建設する強盛国家は、今日地球上に存在する大国といわれる国々とは根本的に異なる、新しい姿をした国だということである。

かつては人口数が多く、領土が大きい国、あるいは社会の一定の分野が他国を圧倒しうるように発展している国を大国、強国と言ってきた。これは強大国に対する正しい理解だといえない。それは国の大本が人民であり、国の富強・繁栄を求めるのも、強国を建設するのも人民であるからである。

人民大衆を中心に据え、彼らの生命である自主性を擁護

し実現することのできる国力を総合的に揃えているか否かを基準にして強大国の表徴を論じてこそ、強国に対する正しい理解をもっているといえる。

偉大な総書記が構想した強盛国家はどういう国なのか。

金正日総書記は「**われわれが言う強盛大国とは、社会主義の強盛大国です。国力が強くすべてが栄え、人民が満ち足りた生活を営む国が、社会主義の強盛大国です**」と述べている。

チュチェの社会主義強盛国家は、人民大衆の理想と念願を実現してくれる社会主義に基づいて、政治、思想、軍事、経済、文化のすべての分野が絶えず発展・繁栄し、人民が満ち足りた生活を営む国である。この観点から見るとき、朝鮮の社会主義強盛国家という概念は領土や人口数の大きさを言う自然地理的概念としてではなく、人民大衆の自主性実現の見地から見た社会主義国家の威力を指す、社会的・政治的概念として捉えるべきであろう。

チュチェの社会主義強盛国家がどういう国であるかについて社会発展の分野別に分けて、つまり政治思想強国、軍事強国、経済強国、文明国の側面で具体的に見ていこう。

1） 政治・思想強国

金正日総書記は次のように述べている。

「世界の人々も認めているように、現在、われわれの政治的・思想的威力と軍事的威力はすでに強盛大国の地位にあると言えます」

強盛国家というのは、全人民が思想・意志的に団結した国だという象徴的な表現である。

強盛国家といえば何よりも国力の強い国を言うが、国力において基本は政治的・思想的威力である。国力の基本が政治的・思想的威力であるため、強国の第一の表徴は政治的・思想的威力となる。

政治的・思想的威力が国力中の第一の国力となるのは、政治が社会発展において決定的意義を持つ分野であり、その限界を知らない思想の威力が国と民族の発展と繁栄の保証となるからである。

一つの思想、自主思想が全社会を支配し、それに基づいて全人民が固く団結した国、一つの政治的力量として固く団結した人民大衆の力に依拠して対内外的に自主政治を実施する国が強力な政治的・思想的威力を持つ真の強国なのである。

一つの思想・意志で固く団結した人民の力は尽きないも

のであり、その力にかなうものはこの世にない。

民心は天心である為、人民の心を一つに志向させ、彼らの積極的な支持を受けることが国の発展と繁栄を遂げていく上で何ものにも比べようなく重要なこととなる。それで昔から哲学者たちは徳治思想を打ち出し、政治家たちはその実現に励んだのであるが、誰も実現したことがなかった。

人民大衆が一つの思想と意志、情で結束され、国と民族の運命を自主的に切り開いていく、政治・思想強国建設にたいする人類の夢は、20 世紀の朝鮮で現実となった。

朝鮮が政治・思想強国になりえたのは、党が人民大衆の要求と志向を反映した自主思想を打ち出して対内外的に彼らの自主的権利と利益を擁護し、彼らの要求と志向を実現させる自主政治を終始一貫実施してきたからである。これとともに人民を限りない愛情で抱いて見守る人徳政治を実施したからである。

自主政治は朝鮮労働党を特徴づける政治理念、政治方式となっている。

金日成主席と金正日総書記は「以民為天」の崇高な政治理念と高い政治実力、鉄の胆力と気概を持って自主政治を実施してきた。それによって党の政治的基盤を固く打ち固め、国の尊厳と威力を非常に高めた。

金日成主席は一生涯、教条と事大を排撃し、独創的な自主政治を実施した。解放直後、立ち遅れた農業を守り立て

るために協同化が切実に必要であったが、植民地的および封建的桎梏から解放されて自分の土地を持ちたがる農民たちの念願を汲みいれ、無償没収、無償分配の原則で土地改革を実施するようにした。戦後には協同化にたいする農民たちの要求と革命的熱意に即して、技術的改造に先立って経営形態を改造する独創的な農業協同化方針を打ち出し実行した。資本主義的商工業の社会主義的改造も、他国とは違って個人手工業者と商工業者を社会主義的勤労者に教育、改造する方法で行った。

重工業を優先的に発展させながら軽工業と農業を同時に発展させるべきとの経済建設路線と、人民政権を絶えず強化しながら思想、技術、文化の 3 大革命を力強く行うことべきとの社会主義建設の総路線を独創的に提示し、社会主義建設を導いてきた。チュチェの旗じるしを高く掲げて人民の自主的権利と利益、革命の利益を優先視した主席の自主政治により、党の社会的・政治的基盤が強固になり、朝鮮は事大と屈従で汚れた受難の歴史に終止符を打ち、自主、自立、自衛の社会主義強国として立ち上がるようになった。

偉大な金正日総書記は先軍政治方式を打ち出して実行し、現代自主政治のモデルを見せた卓越した政治家である。

主権国家を予告なしに爆撃して侵攻し、一国の国家指導者を勝手に国際裁判所に呼び出して自らの利益に即して判決する帝国主義の乱舞が公然と蔓延る国際舞台で、国と民

族の尊厳を守る自主政治を実施することは言葉のようにたやすいことではない。

国の自主権守護と国民の利益擁護をスローガンとしてばかり残し、帝国主義の強権と横暴により悲惨な生を終えたイラクのサダムと前ユーゴスロバキアのミロシェビッチの事例はそれに対する理解を助けるであろうと思う。

揺るぎない政治的信念を体現した総書記はもっとも厳しい試練の時期に、党は絶対に人民を裏切ってはいけないといいながら国の自主権と人民の運命を守って自主の旗、先軍の旗をもっと高く掲げた。

時々刻々犠牲を伴う先軍の道で、総書記は人民の生命であり生活である社会主義を守りぬき、国の強固な平和と富強・繁栄、人民の幸せのための万年の土台を築き上げた。

これについて南朝鮮のある出版物はこう書いている。

「1990 年代までもアメリカは、自らの要求の応じない国々を大陸別に、あるいは国別に調べて呑みこんだりした。しかし今は事情が完全に変わった。アメリカは他国を呑みこむのに不便を感じるようになった。それはアメリカの喉の深部にとげが一つ刺されていることと関連する。その棘とは『韓』半島の北部地域に刺されている反帝反米の先鋒旗、社会主義の赤旗である。アメリカは直ちにとげを除去する作戦に取り掛かったが、そのとげを取り抜くことができないのはもちろん、とり抜こうとすればするほどもっと深く刺されるから問題なのだ。

こうした現象は偶然的にではなく、北朝鮮がアメリカの軍事的威嚇に対応した先軍政治路線を前面に掲げたために起こっている。北朝鮮はすべての国家政策に軍事力強化を優先視する先軍政治を基本政治方式とする。北朝鮮は先軍政治を旗じるしとして人民軍を主力部隊に押し立て、核と先端兵器を開発した。

情熱に満ちていたクリントン、老将ブッシュ、狡猾なオバマまでも 20 年余りこの赤旗を相手にして戦争を試みたが、その多くの対北戦争計画のうちどの一つも実行されなかった。

それはとげの効果、先軍の効果のためであった。

その間アメリカに便乗していた国々もアメリカの威力について疑問を持ち始め、20 余年にわたる北朝鮮とアメリカとの対決戦過程を通じて人々はとげの『低費用、高効率』に注目するようになった。

大きな国、小さな国に関係なくすべての国がアメリカの横暴にたいする必勝の秘訣を北朝鮮のとげの戦略、すなわち先軍路線から求め、反帝反米戦線を再び形成し始めた。『韓』半島の小さなとげが、大陸をも動かす中心軸として自分の役割を拡張したわけである。」

国と民族の最高利益を守り繁栄の土台を築いていく偉大な総書記のもっとも徹底した自主政治、先軍政治に対する正しい評価であるといえる。

朝鮮が世界に唯一無二の政治思想強国になりえたのは

朝鮮労働党が自主政治とともに「以民為天」の人徳政治を施したからであった。

主席と総書記は一生涯、人民を天のごとくみなし、彼らの利益を最優先視しながら、人民に限りない愛情と配慮を施した。人民に対する最大の愛は彼らを自主の思想で武装させることである。

主席と総書記は人民を徹底した自主の思想であるチュチェ思想で武装させて精神的支柱を打ち立てるようにし、彼らの生活を血肉の情で隅々まで見守った。人民を広い懐に抱いて彼らの社会的・政治的生活から物質生活、文化情緒生活にいたるまで細かく見守るその愛は、全国が領袖を父親としていただく一つのむつまじい大家庭のように作り、すべての人々が党と領袖の周りに一つの意志と情で、道徳・信義的に固く結束するようにした。

歴史には国民のための政治思想を打ち出して実践したことにより人々が記憶し話題に上げたりする政治指導者たちもいる。しかし彼らはみな人民大衆を天のごとくみなし、彼らの自主的要求を実現させるために献身していないため、全国民の絶対的な支持を受けてはいなかった。

ワシントンは「国父」と呼ばれたりはしたが、誤った政策を施したため民心を得ることができず、「英雄」として呼ばれていたリンカンは制限された黒人（後は彼らの支持まで失った）たちと奴隷から「同情」を受けた。マハトマ・ガンジー

は「建国の父」「偉大な魂」として呼ばわれたが、国民会議派の支持しか得ず、イスラム教派やヒンドゥー教派との和合を成すことができなかった。祖国の繁栄と人民の幸福をもたらすことを生の目標、生きがいとみなし、そのために一生涯を捧げた主席と総書記をいただいていたため、朝鮮は指導と大衆結合の粋といえる一心団結を実現した。

領袖が偉大であれば小さな国も偉大な時代思想の祖国、思想の強国、政治大国として光を放つことができる。

朝鮮は全人民が自主の思想、チュチェ思想で武装し、党と領袖の周りに一つの心、一つの意志で固く結束された思想の強国である。

朝鮮人民は誰もがみな、社会的人間としての尊厳と価値を輝かせ、自分の運命開拓と国と民族の富強・繁栄を目指す真の道を明らかにする偉大な思想はチュチェ思想だけであることを悟り、チュチェ思想の要求通りに生き、働いている。そのような彼らの思想・精神世界は、彼らが掲げた「思想も、技術も、文化もチュチェの要求どおりに！」、「われわれの方式で生きよう！」というスローガンを通じてもよく分かる。

人民の幸せを実現するために献身奮闘する領袖を擁護し、党と領袖の構想と意図を決死貫徹することは、朝鮮人民の生の要求、誉れ、良心となっている。

苦難の行軍、強行軍の厳しい日々を通して今日に至る期間、朝鮮人民が社会発展のすべての分野で収めた変革的成

果は、革命の道で結ばれて繋げられる領袖と人民間の血縁的絆についてもっと深く理解できるようにする。

朝鮮の北部のある地方産業工場には数十名の子供を立派に育てながらも工場の近代化と生産正常化を実現した独身の女性支配人がいる。

多くの子供を受け持って育てながら稼動を止めていた工場を生かし、近代化して生産正常化を実現したその立派な人柄の根底には何があっただろうか。それは国が困難をなめている苦難の行軍の時期、父母をなくした子供たちのために気を遣っている金正日総書記の心労を軽減してあげ、総書記に喜びだけを上げようという、清らかな衷情の心があったのである。

自分より先に領袖と祖国を考える立派な人格の所有者は、朝鮮のどこでも見出すことができる。数十名、百数十名の父母をなくした子供を受け持って育てている家庭があるかといえば、首都を離れて農場と炭鉱、鉱山など困難で骨の折れる部門に自発的に志願して祖国の繁栄のために頑張っている人々も少なくない。思いがけない状況でも、最後を覚悟する瞬間に一身を捧げて同志たちを危機から救うのが朝鮮人民である。

人民大衆中心の社会主義を立ち上げ、自主の思想を植えつけて張り合いのある生の道へといちいち導いてくれた朝鮮労働党がこういう人民を育てたのである。

彼らの崇高な思想・精神世界から、全人民が領袖と心臓の拍動を合わせ、歩調を合わせて生死苦楽をともにしていくチュチェの思想強国の真の姿、その威力を垣間見ることができる。

偉大な愛が世人を驚嘆させる衷情の世界を、多くの国が願っていながらも実現できなかった政治思想強国建設の夢を現実としてもたらしたのである。

世界の経済大国、軍事大国、領土、人口の大国と呼ばれる国々はあっても政治思想強国は朝鮮一つだけである。

政治的・思想的に強固である国は一時的に試練をなめることはあっても未来が洋々としている国であり、人々が思想的に患っている国は億万の財貨を持っているとしても未来がない国である。個人主義に基づく弱肉強食の法則によって社会生活がなされる資本主義諸国はいつになっても政治・思想強国になりえない。

2） 軍事強国

国を強国に建設するためには政治的・思想的威力とともに軍事的威力も打ち固めなければならない。

強い軍事力がなければ国と民族の自主権と生存権、社会主義を守りぬけないのはもちろん、強国建設も成功裏に行うことができない。

侵略と略奪を本性とする帝国主義が出現したときから地球上では戦争が絶えなかった。

第1次、第2次世界大戦の以外にも去る世紀には伝統的概念の戦争と、地域、あるいは集団間の武装戦闘が数多く起こっていた。1995 年 1 年間だけでも地球上には 50 余回の国と国の間、地域あるいは集団間に武装戦闘があった。

進歩と反動、自主勢力と支配勢力間の対立により戦争の絶えない歴史の中で、すべての国と民族は軍事力強化の必要性を切実に感じ、それに莫大な資金と手間をかけてきた。

朝鮮の場合には、地政学的および歴史発展の特性からしても、どの国より軍事力を強化しなければならなかった。地政学的に列強の間に挟まれていて干渉と侵略も多く受けてきた上に腐りきった封建政府の 500 年の統治により国力がすっかり衰え、近代に入ってから朝鮮は日本帝国主義の植民地になってしまった。

1905 年朝鮮を強奪する当時、日本帝国主義は 6000 トン級以上の最新軍艦だけでも12隻、大砲、機関銃など近代的武装装備を揃えた陸軍装備武力が20万名に達していた。

しかし朝鮮は自力で一挺の小銃も作れない状態であり、軍隊はせいぜい 9000 名程度であった。

抗日革命戦争を勝利へと導いた偉大な金日成主席の愛国的献身と賢明な指導により解放を向かえた朝鮮は、今度はアメリカ帝国主義によって北と南に分断されるようになった。

解放後 5 年、共和国創建 2 年ぶりに朝鮮はアメリカ帝国主義が起こした 3 年間の戦争を行い、半世紀を越える今まで、南朝鮮を占領した帝国主義の頭であるアメリカ帝国主義と対決している。

帝国主義との対決を通じて得た鉄の真理は、人民軍の強力な銃剣、そこに国の自主権と平和があり発展と繁栄があるということである。

一世代に2回にわたる解放戦争で強敵である日、米両帝国主義を打ち倒した鋼鉄の統帥金日成主席は、銃重視、軍事重視思想を打ち出して先軍革命指導を行い、国の自衛的国防力を各方面で打ち固めた。

偉大な金正日総書記は主席の軍事重視思想を継承して帝国主義連合勢力との全面対決戦がより激しく行われる新しい歴史的時代の要請にふさわしく先軍政治を施し、朝鮮を無敵必勝の社会主義軍事強国に転換させた。

金正日総書記は次のように述べている。

「わが人民軍は無敵の革命武力に強化され、社会主義のわが祖国は、威力のある軍事強国として国際舞台に堂々と進出しています」

社会主義軍事強国は、軍隊が政治的、思想的に、軍事技術的に優れている無敵の革命強兵に準備され、全民が武装し、全国が要塞化された国、自立的で現代化された国防工業を持つ国である。

朝鮮は上述の社会主義軍事強国の面貌を備えた不敗の国である。朝鮮は無敵必勝の革命強兵を持つ軍事強国である。国の軍事力は軍人と武装—2 大要素からなされ、ここで基本は軍人である。

戦いの勝敗を決定するのは兵器や戦闘技術機材ではなく、銃を握った軍人大衆であり、軍隊の戦闘力の状態は彼らの政治的・思想的覚悟と準備程度にかかっている。

朝鮮では革命軍隊の第一の風貌を、思想的・精神的風貌とみなし、創建当初から軍人大衆を政治的、思想的にしっかりと準備させるための思想活動に常に深い関心を払ってきた。

軍人たちがまず、国家的支援もなしに、強固な後方もなしに偉大な金日成主席に従って白頭の荒野で風に吹かれ、露にぬれて野宿しながらも遊撃戦を行い、つめ先まで武装した百万の関東軍と対抗して戦った抗日の革命烈士たちの革命精神で武装するようにした。これとともに祖国と人民に対する熱烈な愛情とあらゆる階級の敵に対する非妥協的な闘争精神を持って帝国主義に反対して最後まで戦う覚悟を持つようにした。1950 年にアメリカが起こした 3 年間の朝鮮戦争は朝鮮人民軍が政治的・思想的優越性でもって 100 年あまりの戦争歴史と軍事技術的優勢を誇るアメリカ帝国主義とその追随諸国の軍隊を打ち倒した偉大な戦争であった。

以下の敗戦将軍の告白はその事実を証明している。

「率直に言えば、朝鮮戦争は大きな軍事的災難であり、

誤って選んだ場所で、誤って選んだ時間に、それも誤って選んだ敵を相手にして、誤って行った戦争であった。」(元アメリカ統合参謀本部議長ブラットレー)

「アメリカが朝鮮で撃破されたことはきわめて明白なことである。世界に彼ら『朝鮮人民軍』を撃退するに十分な部隊はない」(元米軍将軍タフト)

今日、朝鮮人民軍の政治的・思想的威力は、軍事を第一の国事とし、人民軍の強化に優先的力を入れる朝鮮労働党の先軍政治によってより強化された。

偉大な金正日総書記は 1990 年代の中期から生涯の最後の年である 2011年まで、祖国守護の決断と愛国、愛族の鉄の意志を持って2490余の武力部門の単位を現地視察した。

この日々に一日中 100 里の雪吹雪の道を走って前線東部の部隊を訪ねた日もあり、一身の危険もお構いなく荒波をかき分けて小さな島の哨所を訪ねた日もあった。

総書記は軍人がいる所ならみな訪ねると言いながら祝日も、休日も分かたず人民軍部隊を訪ねてまた訪ねた。訪ねては教育室と食堂や洗面場、倉庫などを全部見回りながら軍人たちの生活を肉親の情で見守った。

軍人たちの文化生活のために画面伴奏音楽機材と娯楽器具、楽器とスポーツ機材をワンセットで送ってやり、TV で兵士たちの故郷の知らせを日常的に放映するようにもした。兵士たちの素朴な芸術公演も観てやり、彼らの願いどおりに記

念写真も撮影してくれた。 勤務で記念写真を取れなかった兵士たちが残念がることを考えて待ってくれ、女性沿岸砲兵たちが海風により皹切れしたのが気になって薬のクリームまで送ってくれた慈愛深い金正日総書記であった。

先軍統帥の懐で朝鮮人民軍の軍人たちは革命の首脳部を決死擁護することを第一の課題とし、最高司令官の命令を英雄的犠牲精神を発揮して決死貫徹し、革命的軍紀を確立し、祖国と人民を熱烈に愛する、高潔な政治的・思想的品格の持ち主として準備されるようになった。

党と領袖、祖国と人民のために命を賭して戦う朝鮮人民軍の政治的・思想的威力は、1999 年とその後にあった朝鮮西海海上戦闘、2010 年の延坪島砲撃戦などで誇示され、世界を驚かせた。

朝鮮人民軍の政治的・思想的威力について旧ソ連の国防相であったドミトリ・ヤゾブは、「金正日最高司令官と必勝強兵」という題の記事で次のように書いている。

「朝鮮人民軍内の思想の一色化と愛兵風潮は、最高司令官から兵士にいたるまで、全軍隊伍を一つの思想に基づく一心同体に作り上げた。そしてそれは軍力を百倍、千倍に強化している。

銃を握った使命感を立派に自覚している朝鮮人民軍軍人たちは、自分の領袖と党、社会主義に対する決死防衛の同一の信念を持っている。彼らが今、「全軍が敬愛する最高

司令官同志を決死擁護する銃弾、爆弾になろう！」というスローガンを掲げているのを見てもよくわかる。

人民軍の将官も、兵士たちも最高司令官を単に服従関係にある軍統帥というよりは、人生の慈父として、軍服務の恩師として仰ぎ従っている。

人民軍内で最高司令官の命令は権力行使である前に信頼と愛情に基づいており、兵士の服従は義務である前に尊敬と信義に基づいている。これは朝鮮人民軍でのみ見られる特有の軍紀である。

勝利だけをもたらす偉大な軍統帥に対する絶対的な信頼を持っていつも勝者になる目標を持ち、一当百のつわものとして準備している朝鮮の軍人たちの政治的・思想的、軍事技術的状態は最も高い現代的水準に達している。それを私の目で直接確認した」

朝鮮は人民軍の政治的・思想的威力の強化とともに、彼らの軍事・技術的威力の強化にも常に力を入れてきた。それにより、朝鮮人民軍は最新高性能兵器と戦闘技術機材を持って白頭の訓練熱風の中で必勝の金日成・金正日戦法と大胆な攻撃方式、完璧な実践能力を備えた最新鋭の革命強兵に強化された。

朝鮮は全民が武装し、全国が要塞化された不敗の軍事強国である。朝鮮では全民が偉大な主席と総書記の必勝の軍事戦法と技術で武装し、人民軍を中核とした一つの軍事

的力量として組織化されている。国のすべての地域、すべての地帯は難攻不落の砦、防御陣地として打ち固められた。

自立的で現代的な国防工業の発展にも力を入れて朝鮮は、今日、近代的攻撃手段と防御手段をみなそろえた、強力な戦争抑止力を保有した軍事強国となった。

朝鮮は自分の力と技術で 3 回の人工地球衛星の打ち上げに成功した人工地球衛星の製作および打ち上げ国である。

「ロケットは射程距離と性能に比例して外交力を発生させる」

これが国際政治の行動原理となっている現時点で、3 回にわたって 100％国産化された人工地球衛星の打ち上げに成功した朝鮮の政治、外交的権威と軍事的威力については論議の余地もないと思う。

すべての近代的な攻撃兵器と防御兵器、世界の数カ国でしか作れない邀撃ミサイル総合体まで作る朝鮮の国防工業の発展水準は 2010 年と 2012 年にあった朝鮮労働党創建 65 周年と偉大な金日成主席の生誕 100 周年慶祝閲兵式でも示威された。

朝鮮民族は一世紀前までも国力が弱くて日本帝国主義に国を奪われ、国権を取り戻そうと大国に助けを懇願し、万国平和会で亡国の民の悲しみを割腹して血を流しながら訴えていた弱小民族であった。奪われた国を取り戻そうと国債補償運動も行い、「自我修養」、「実力培養」も提唱し、独立示

威や散発的な独立軍運動に国権回復の希望もかけてみた人民であった。

こういう弱小民族を抱き上げて抗日の大戦に決起させ、国を取り戻した方、帝国主義の侵略から祖国を守り抜いた方は、偉大な金日成主席であった。

偉大な金日成主席は国が日本帝国主義の植民地基盤から解放されるや直ちに兵器工業を創設し、国防力の強化に力を入れた。

戦後、内部的には南朝鮮にアメリカ帝国主義がとぐろを巻いて絶え間ない北侵騒動を起こし、外部的には修正主義者たちの投降主義的策動と帝国主義者の専横がより横暴になっていた国の情勢を見極め、経済建設と国防建設の並進路線を提示し貫徹してきた。

独創的な自衛的軍事路線（全軍幹部化、全軍現代化、全民武装化、全国要塞化）を提示して心血を注いで貫徹して強力な自衛的国防力を築き上げた。

主席が打ち固めた自立的国防工業の土台に基づいて総書記は先軍政治でもって国を軍事強国の地位に引き上げる民族史的偉業を成し遂げた。

東方の小さな国が、それも帝国主義連合勢力の執拗な制裁と封じ込め政策の対象であった朝鮮が、軍事強国に転換されたことに対する世界の反響はどうなのか。

ある国の出版物は「…イギリスの首相であったチャーチル

は、スターリンについて評価しながら、彼は手ぐわを持って営農をしていた立ち遅れたロシアを譲り受けて原爆で武装させて次代に譲り渡した。

…

金正日国防委員長こそ、朝鮮民主主義人民共和国をそのような地位に引き上げることにより、世界的な指導者として名声をとどろかせている」と書いている。

ロシアの新聞「パトリオット」は、「数十年間もアメリカとその追随勢力が総動員して制裁と封じ込め、孤立、圧殺政策を取ってきたが、弱化されるどころか、むしろもっと強くなった朝鮮、宇宙強国にまで浮上したその現実を認めるのが彼らにはとても辛かったであろう」と、ヨルダンの新聞は「朝鮮での衛星打ち上げを契機にして西側世界は気が狂ってしまい、理性を失った。それは朝鮮が西側のいかなる技術にも依存せずに純粋に自国の力で衛星の打ち上げを成功させたからである」と書いた。

朝鮮が国と地域の平和と安全のために軍事力を打ち固めるやアメリカ帝国主義は国連安全保障理事会「制裁決議」に次いでより強度の高い「制裁決議」を発表しながら騒動を起こし、南朝鮮傀儡当局は「北核威嚇除去」を喧伝しながら、外部勢力と野合して北侵戦争演習に狂奔している。

去る世紀の50年代の朝鮮戦争での敗北の教訓を忘却したアメリカ帝国主義、弱者との戦争でない戦争での勝利に自

慢陶酔したアメリカ帝国主義は、空論を言わない朝鮮の度胸と意志、強力な自衛的軍事力を誤判してはならない。

軍事技術的優勢はもはや帝国主義だけの独占物ではなく、共和国を核で威嚇恐喝していた時代は永遠に過ぎ去った。

満足を知らない強盗の本性で核兵器を振りかざしながら人の財貨を奪いこむのに面白みを覚えたアメリカ帝国主義を盾にした南朝鮮の執権者も、同胞が築き上げた軍事力のお陰をどんなにたくさん被っているのかを国民の声を通じて知るがよいであろう。

南朝鮮の雑誌「マル」2003 年 6 月号は「『韓』半島―核兵器の動員された戦争が起こる場合、損失額は総じて大体 21 兆 204 億 4000 万ドル、平和が保障される場合以南国民は数十兆ドルのお陰を被ることになる」と書いた。

朝鮮は今後も国の安全と地域の強固な平和のために、支配主義、帝国主義のない新しい世界を建設するために、変わりなく先軍の旗を高く掲げて軍事強国の地位を固めて行くであろう。

3） 経済強国、文明国

金正日総書記は次のように述べている。

「わが国の政治・思想陣地と軍事力がしっかりと固められたので、これから経済問題さえ解決すれば、強盛大国建設

の偉業をりっぱに実現することができます」

チュチェの社会主義強盛国家は、政治・思想強国、軍事強国の面貌に経済強国、文明国の面貌までそろえた国である。

朝鮮は今日、政治思想強国、軍事強国の地位を強固にしながら国を社会主義経済強国、文明国に作り変えるための総進軍を行っている。

以下、朝鮮人民が建設しようという経済強国、文明国の表徴は何であり、経済強国、文明国建設においてどういう成果を遂げているのかについてお話しする。

朝鮮人民は何よりも、社会主義経済強国建設に励んでいる。

強力な国家経済力は自主政治と自衛的軍事力の確固たる保証であり、人民に幸せな生活を保障して彼らに社会主義の勝利に対する信念を持たせるための重要な条件となる。

朝鮮では政治思想強国、軍事強国の地位を強固にし、国の全般的国力を強国の地位に引き上げるために、経済強国の建設に拍車を加えている。

朝鮮で経済強国を建設するというと、多くの人々はその表徴を既存の観念で論じている。

彼らは朝鮮がいつまで GNP において先進国の水準に到達するというのか、主要製品の生産指標のモデルをどの国のものを参考にしているのかなど、と質問している。

経済建設と発展の根本的目的を人民の福祉増進に置く

朝鮮では、経済強国の表徴も人民大衆を中心にすえて論じている。

朝鮮が建設しようという社会主義経済強国は、国家と社会の主人である人民大衆にこの世に何羨むもののない豊かな物質文化生活を円滑に保障し、自主政治と自衛的軍事力を物質経済的に保証しうる、発展した経済力を持つ国である。

社会主義強国の経済は、自立的で現代化、情報化されなければならない。

経済は社会生活の物質的基礎であり、その発展は国家を単位にしてなされる。それゆえ自国経済の持続的で強固な発展を遂げるためには、とりわけ経済力が強国の地位に達するようにするためには、経済の自立性が保障されなければならない。

自立的民族経済は自国民のために奉仕する経済、自力に依拠し、独り立ちできる経済である。

自立経済は富強な祖国建設と人民生活に必要な重工業と軽工業製品、農業生産物を基本的に自国で生産保障しうる、多方面的な経済構造、原料の生産から完成品の生産にいたるまでのすべての生産工程を総合的にそろえた経済である。

また自国の技術、原料、燃料に基づき、民族の技術幹部によって発展する経済である。

経済の自立性とともに現代化、情報化は経済強国の基

本的表徴の一つである。

現代化され情報化された経済は、すべての部門が最新の現代技術で装備され、すべての生産と経済活動が現代的科学技術に基づいて行われる経済である。

経済の現代化、情報化は経済の急速な発展と実利、国家的および人民的需要を保障するための重要な要求である。

社会主義経済強国は、人民の豊かで文明的な物質文化生活を裏付ける経済を持つ国、人民の絶えず高まる生活上の要求を満たし、何の気苦労もなく暮らす国である。

社会主義国家が民族経済の自立性を強化しながら経済の現代化、情報化を実現する究極の目的も、人民に自主的でかつ創造的な物質文化生活条件を保障しようというところにあり、経済建設の成果は人民生活で現れるべきである。

朝鮮では経済建設で経済の自立性の保障、主体化の実現に大きな力を入れてきた。

この過程で経済が自力で発展し、自国民に奉仕しうる多方面的で総合的な経済構造を持つようになった。

また原料、燃料、資材の輸入依存度を低下させ、その国産化の実現において成果を収めている。

最近年、経済の発展に切実に必要な鉄と肥料、繊維と耐火物を、国内に豊かな原料、燃料で生産するシステムを確立した。

朝鮮ではこれらの成果がチュチェ思想を具現して収めた勝利であると自負し、チュチェ鉄、チュチェ肥料、チュチェの

ビナロン、チュチェの耐火物であると言っている。

朝鮮では科学技術が急速に発展し科学と生産が密着していく世界的趨勢にあわせて、経済の現代化、情報化を力強く進めている。

人民経済の機関車である金属、電力、石炭、鉄道運輸部門の発展に主な力を入れながら経済全般の現代化水準を非常に高めている。

その過程で先端、最先端水準の科学技術が開発導入され、経済が知識型にその面貌を一新している。

知識経済時代の冶金工業の粋とも言える電気炉の超高電力化が実現され、化学工業部門で石炭ガス化による肥料生産を始め、鉄道部門では交流電気機関車を生産した。

特に現代産業の柱である機械工業部門で CNC 技術の最先端を突破する奇跡をもたらした。

CNC 工作機械の本体加工用の親機械の生産とコンピュータ統合生産システムによる生産工程の確立により CNC 技術の最先端を突破したことを踏まえて、経済全般において最先端突破戦、新世紀の産業革命の炎が激しく燃え上がっている。

多くの工場、企業所が現代的に改造され、先端、最先端科学技術に基づいて生産と経営活動を行う工場、企業所が新たに立ち上がっている。

経済建設の成果が拡大されたことにより苦難の行軍の痕

跡が無くなり、人民の生活が改善されつつある。

人民生活問題はすなわち、人民の食、衣、住の問題である。

朝鮮人民が昔から抱いてきた何の羨むものの無い食、衣、住の生活に対する念願は、白米のご飯に肉汁を食べ、錦の衣服を着て、瓦葺の家で暮らすことであった。その念願を解決するために朝鮮では人民生活に直接関与している軽工業と農業を経済強国建設の主な攻撃方向と定め、その発展に力を入れて成果を収めている。これとともに人民の住宅建設にも国家的投資を惜しまないでいる。

御殿のような屋敷で暮らしたがっていた朝鮮人民の念願は労働党時代、先軍時代に党と国家の施策によって立ち上がった社会主義の仙境都市、仙境村で十分実現されている。

事実、世界のどの国でも頭痛の種となっている住宅問題が、朝鮮では円滑に解決されているといっても過言ではない。

人民生活を向上させる上で収めた成果については後でもっと具体的に言及することにする。

もちろん物質生活上いまだ豊かでなく、軽工業と農業部門で人民生活の向上のためになすべき事も多い。

しかし、読者たちも考える必要があると思う。

去る世紀、40 年余りも日本帝国主義の最もあくどいファッショ統治により跛行性と奇形性の甚だしい経済を譲られた上にアメリカ帝国主義が起こした戦争によりことごとく破壊され灰燼に帰していたことを、共和国の工業の発展の歴史がどのぐ

らいであり、その短い期間に朝鮮の経済に対する帝国主義連合勢力の制裁がどんなに酷いものであったかを考えてみよう。

1950 年代から「輸出統制法」(1950. 6.28)、「敵性国貿易法」(1950. 12.17)、「対外援助法」(1962. 8.1)、「輸出入銀行法」(1986. 10.5)、「ワッセナ協定」(1996. 7.12)、「国際金融機構法」(1994)などアメリカ帝国主義が作り出した朝鮮に対する制裁法はそれこそ 40 を超えている。これらの法によって朝鮮は経済のすべての分野において制裁を受けており、世界の多くの国との一切の貿易、金融取引、科学技術交流全般を禁止されてきた。

アメリカとその連合勢力は主要工場設備、先端技術は言うまでもなく、人民生活に必要な物資までも 2 重用途というレッテルをつけて、その取引を制限、禁止させている。

アメリカとその連合勢力は 2006 年と 2009 年、2012 年、2013 年にわたって衛星の打ち上げのような朝鮮の自主的権利の行使を口実にして国連安全保障理事会の「制裁決議」を連続採択させ、朝鮮の経済発展を全面的に妨害している。このようにごく不利な条件で収めた朝鮮の経済建設の成果だと言う時、それは事実大きいといえる。

制裁策動が強化されれば強化されるほど朝鮮人民はより頑張るであろうし、経済の自立性と現代化、情報化水準は日増しに高まるであろう。

朝鮮人民は今日、社会主義の原則、軍事優先、自力更

生の原則を守りながら、先軍時代の経済建設路線(国防工業を優先的に発展させながら軽工業と農業を同時に発展させるとの路線)と科学技術重視路線に従って経済建設に力をいれている。

経済発展を進めて強力な国家経済力を築きながら、朝鮮は社会主義強盛国家としての面貌を全面的にそろえ、人民は張り合いのある高価な政治生活と健全で豊かな思想文化生活、文明的物質生活まで営むようになるであろう。

次は社会主義文明国建設についてみよう。

朝鮮が建設している社会主義文明国は人民の文化水準が最も高い水準にいたっている先進強国である。文化には科学、教育、文学芸術、体育、保健などが属する。こういう意味で社会主義文明国は、科学技術と教育、文学芸術とスポーツ、保健部門が最も高い発展水準に達している国であると言える。

朝鮮は新しい社会建設の当初から先進的で人民的な社会主義文化建設路線を打ち出して実行し、文化建設で誇らしい成果を遂げてきた。

朝鮮の科学技術と教育は、その発展水準において社会主義文明国の水準に至っているといえる。

現代は社会発展と社会生活で科学技術の果たす役割が非常に強化された科学と技術の時代、情報産業時代である。経済分野だけを見ても 20 世紀の初め、経済成長において資源、労力、資金が多くの比重を占めていたが、1970 年代に入

ってからは科学技術が 75%、資源、労力、資金の比重が25%になり、1990 年代以降からは生産成長のほとんどが科学技術の発展によってなされている。

朝鮮では時代の要請に即して科学技術重視路線を打ち出し、科学技術の発展に力を入れて世界的な成果を収めている。

金属工業部門、機械工業部門で最先端技術を連続的に開発する成果を上げており、生物学分野では先端、最先端技術である遺伝子解釈技術、生命情報技術、クローン化技術、ゲノムによる遺伝子転移技術、遺伝子解釈に基づく植物識別技術、毒性と公害のない新しい生物農薬アベルメクチンを開発した。ナノ抗菌繊維生産システムの確立と走査型トンネル顕微鏡、高麗薬剤の抗癌剤生産など、各分野で高い水準の科学技術的成果が収められている。

前でも触れているが、朝鮮は人工地球衛星の打ち上げに 3 回も成功した。地球を回っている朝鮮の人工地球衛星こそは、国の科学技術発展の水準を直観的に見せている。

今日、世界的に先端科学技術を 6 つの領域の 12 の分野に、生物医療機構産業、生物光学産業、知能機械産業、プログラム産業、超伝導産業、太陽エネルギー産業、空間産業、海洋産業などを包括すると見ている。こう見るとき、朝鮮の科学技術全般が先端水準に達しているということは理性的に判断できるであろう。

朝鮮が科学技術分野で遂げた世界的な成果は、国の先進的で人民的な教育の発展を切り離して考えることができない。

朝鮮は全人民が幼い時期から一生の間、党と国家の配慮により無料で勉学する世界唯一の国である。朝鮮には国情が困難であった時期に、経済土台がまだ築かれていなかった時期から人民的施策として始まって今日に至っている先進的で人民的な教育制度、全般的 12 年制義務教育制度と学業を専門とする高等教育制度、働きながら学ぶ教育制度が整然と樹立されている。

中等義務教育制の下で学生たちは、党と領袖に対する忠実性、祖国と人民に対する熱烈な愛と献身的奉仕精神、社会主義道徳、基礎技術知識と壮健な体力を備えた有能な人材に育てられる。

高等教育制度の下では、学業を専門とする学生たちと現場で働く人々が国家から奨学金と生活費をもらいながら、社会の発展に寄与しうる専門知識を学ぶ。

教育を国の未来と関連する万年大計の事業とみなす党と国家の深い関心と配慮は、数百万の有能な知識人の大軍を育てている。

朝鮮労働党は、現時期、すべての部門で自国の地を踏まえ、目は世界に向けて最先端を突破するようにとの思想を打ち出した。

朝鮮では党の富強な祖国建設思想を実践で奉じる革命

の人材を育成できるように、教育の内容と方法、システムを完成するとともに、教育の物質的・技術的土台をしっかりと打ち固めている。

朝鮮は科学的で革命的な教育の内容と方法、全般的で人民的で、持続的な教育体制の面で、世界的モデルの教育国家、第一の文明国といえる。

朝鮮は文学芸術と保健、スポーツの発展を進めて、社会主義文明国の面貌を完璧に備えている。

朝鮮の文学芸術は、人間が人間らしく自主的に生きていくうえで必要な真の思想と道徳、健全で豊かな文化的素養を与えることを自らの使命とし、民族的形式を備え、社会主義的内容をこめている。

朝鮮の文学芸術は、詩と小説、歌劇、音楽、舞踊、美術、演劇、映画など各分野が全面的に開花発展した。これは世界的な舞踊表記法と有名な5大革命歌劇、5大革命演劇、大マスゲームと芸術公演「アリラン」の創造、各芸術分野での世界的名作の形象水準を通じてもよくわかる。

民族の感情と好みに合う形式に人民の志向と要求を反映した革命的な内容をこめているがゆえに朝鮮の文学芸術は、勤労者の精神・道徳的風貌と文化的素質を向上させ、彼らを真の生と富強な祖国建設へと力強く励ましているのである。

朝鮮の文学芸術は、その使命と形式、内容と発展水準、思想教育的意義からして非常に立派な文学芸術である。

朝鮮は世人の羨む無料治療の国である。朝鮮では社会主義医学の本質を予防医学とし、病気の予防に力を入れ、伝染病を完全になくした。

中央から地方の末端住民地区にいたるまで病院を建て、人民に全般的無料治療制を実施している。病院と医者の数が日増しに増え、医者担当区域制を実施して医者たちが担当住民に対する日常的な検診と予防治療を行っている。

医学科学を世界的な趨勢に即して発展させ、専門病院を現代的にたくさん建設し、病院の管理運営を改善して人民に対する医療サービスの質を先進国の水準に確固と追いつかせている。先進的で人民的な無料治療制の施策の下で人民は治療に対する心配がなく60 青春、90 還暦を歌いながら幸せに暮らしている。

スポーツ分野でも大きな前進を遂げている。

朝鮮のスポーツマンは世界選手権大会とオリンピック競技など国際競技に参加して、サッカー、テコンドー、柔道、射撃、マラソン、体操、重量挙げ、などの種目で最優秀成績を、ある種目では3 連勝、4 連勝を記録している。

早くからスポーツの大衆化、生活化を実現した朝鮮では、大高揚の雰囲気を守り立て、民族の気概をとどろかす新しいスポーツの熱風が起こっている。

スポーツに対する党と国家の大きな関心と配慮、正しいスポーツ政策と思想戦、速度戦、闘志戦、技術戦で優勝をして

共和国の旗を高く靡かせようという選手たちの高い熱意、愛国心により朝鮮のスポーツは近い将来にまぶしい発展を遂げるであろう。

文明的生活環境もやはり社会主義文明強国の重要な表徴である。

朝鮮では新世紀の要求と文明的生活環境で生きようという人民の志向と要求にふさわしく都市と村、職場を近代的に作り変え、大衆上げての運動で全国を緑林化、園林化している。

こうして全国を住みよい人民の楽土、社会主義的生産文化、生活文化が花咲く社会主義の仙境に変えている。

すでに収めた成果を強固にしながら科学技術と教育、文学芸術、スポーツと保健の発展と生活環境を一新させるための活動により力を入れれば、朝鮮は世界の人々が羨む文明国としてその尊厳と威容を誇るであろう。遠からず朝鮮人民は人類文明の頂上で幸せな生を営む誇りの高い人民になるであろう。

「一心団結と不敗の軍事力に新世紀の産業革命をプラスすれば、それがすなわち社会主義強盛国家です」

金 正 恩

3.　強国への道

私たちは前で、社会主義強盛国家とはどういう国であるかについて考察した。

社会主義強盛国家建設で収めた成果は少なくないが、雄大な建国目標に到達するためにはまだなすべきことがたくさんある。

人民大衆が長い間抱いてきた夢、不敗の強国でこの世に羨むもののない幸せな生活を営もうという崇高な理想を実現するためには、明確な目標とともにその目標へのもっとも正しく早い道が提示されなければならない。

社会主義強国へと最も真っ直ぐな早道は、チュチェの道、一心団結をより強化し、不敗の軍事力をうちかため、新世紀の産業革命を進めていく道である。

朝鮮では、一心団結の威力で帝国主義の侵略策動に立ち向かって祖国と人民を守り、社会主義強盛国家を建設しようとしている。

朝鮮の一心団結は、領袖、党、軍隊と人民の思想・意志的および道徳・信義的な団結である。

人民大衆の威力は団結の威力であり、もっとも強固な団結は軍隊と人民にたいする領袖の愛と信頼に根源をおく領

袖、党、大衆の一心団結である。

昔の兵書には一群の農民を兵力に使って背水の陣を敷くとしても、彼らの心が一様であればいくら強敵であっても優に勝ち抜くことができると書いてある。

人民大衆の自主的要求と利益を反映して彼らの真の生と闘争の前途を明らかにしたチュチェ思想を思想的基礎とし、慈愛深い英明な指導者を唯一の中心とする一心団結の威力については論ずる必要がないであろう。

もっとも崇高な革命的信義と真の同志的愛に基づいて党と領袖の周りに団結した軍隊と人民は、社会主義強国建設の推進力となる強い精神力を発揮する。すなわち社会主義祖国と人民の運命であり未来である領袖を決死擁護する精神、民族の尊厳と威力を宣揚せんとする強い民族自尊の精神、自力で万難を克服していく自力更生、刻苦奮闘の精神、未来を愛する精神など、社会主義強国建設をめざすすべての優れた精神力を高く発揮するようになる。

一心団結は朝鮮革命の天下の大本であり、社会主義強国建設の勝利の鍵である。

朝鮮革命の歴史は一心団結の威力で勝利し、奇跡と偉勲を刻んできた誇らしい歴史である。

日本帝国主義に奪われた祖国を取り戻そうと自主の旗を掲げて抗日戦の先頭に立った偉大な金日成同志を太陽として押し頂いた熱血の闘士たちによって祖国解放の歴史的勝

利がもたらされた。

領袖は人民を信頼して愛し、人民は領袖を絶対的に信頼して従う、一心団結により朝鮮人民は、アメリカとの戦争で勝利した。

アメリカ帝国主義が 100 年かかっても復旧できないといっていた破壊された祖国を 3 年間で復興し、14 年間で社会主義工業国家、自主、自立、自衛の社会主義国家に転換させた。

1990 年代の後半期、帝国主義連合勢力の反社会主義攻勢が集中されて朝鮮がもっとも厳しい苦難の行軍、強行軍を行っていた時期、偉大な金正日総書記を中心とする一心団結は、その威力を再び世界に誇示した。

厳しい難局を乗り越えて社会主義の守護者として残っただけでも奇跡なのに、朝鮮人民は総書記を奉じ、強国建設のしっかりした跳躍台を築いたのである。

1995 年以降 10 年間だけでも 10 余万の建設プロジェクトを完工するなど、社会発展の各分野で前例のない多くの成果を達成した。

軍隊と人民にたいする総書記の愛と信頼、総書記を清らかな良心と信義で奉じる軍隊と人民の一心団結は、強国建設の日々に原子爆弾よりもっと大きな威力を発揮した。

過ぎ去った朝鮮革命の歴史は一心団結こそ、社会主義強国建設の力強い推進力であり、必勝の武器であることを物語っている。

一心団結で切り開かれ、勝利してきた朝鮮革命は、今日、敬愛する金正恩同志を団結の中心とし、社会主義強盛国家建設の最後の勝利をめざして前進する新しい歴史的段階に入った。

多くの国々が願っていながらもなすことのできなかった強固な団結、朝鮮労働党が世紀を継いで固めてきた一心団結の継承と新しい水準での強固化によって、社会主義強盛国家建設の最後の勝利はもっと早められるであろう。

社会主義強盛国家への進路は、一心団結とともに不敗の軍事力を引き続き固めていくことである。

国家の存在と発展のためには軍事力を強化しなければならないということはよく知られていることである。不敗の軍力が社会主義強国建設の必須不可欠の要素だということは数ヶ月間の朝鮮とアメリカ帝国主義との対決を通じてもよく分かる。

2012 年 12 月 12 日、朝鮮が人工地球衛星「光明星—3」号 2 号機を成功裏に打ち上げるや、アメリカ帝国主義は以前と同じく、2013 年 1 月 22 日、共和国の自主権を乱暴に蹂躙する国連安全保障理事会の決議第 2087 号を捏造した。そして 3 月、4 月に南朝鮮傀儡軍と同盟軍武力まで動員して「キーリゾルブ」、「フォール・イーグル」合同軍事演習まで展開し、核戦略爆撃機「B-52」と、ステルス戦略爆撃機「B-2A」、核を搭載した駆逐艦まで持ってきて露骨の核恐喝をした。撤収していた米軍第 23 化学大隊をまたもや引き入れ、核動力航空

母艦「ニミツ」号と超大型核動力潜水艦まで動員して核戦争の導火線に火をつけようとした。自衛の軍事力を不敗のものとして打ち固めてこそ、朝鮮半島を軍事的に併呑し、朝鮮人民を現代版奴隷に作ろうというアメリカ帝国主義の野望を打ち破り、民族の生存権と社会主義を守って強国建設を自由自在に行っていくことができる。

不敗の軍事力は地球上に帝国主義が残存する限り、国の自主的発展と民族の繁栄を志向する限り、絶対に放棄することのできない民族の生命、財貨である。

新世紀の産業革命は国力が強くすべてが栄え、人民が何羨むもののない豊かな暮らしをする社会主義強国への近道である。

朝鮮での新世紀の産業革命は、経済を知識の力で運営され発展する現代化された社会主義の知識経済に一新させるための経済分野における一大変革である。

20 世紀に機械制産業の時代をもたらした人間の知的能力が急激に拡大発展して、21 世紀には知識経済時代という新しい時代を開いた。知識経済時代は、知識と情報の生産、流通および応用に直接依存して社会経済の発展を推進していく時代である。

現時期、世界的に科学技術、とりわけ情報技術が速やかに発展しており、社会発展と社会生活で果たす役割も非常に強化されている。自然科学、社会科学が総合的に発展し、互

いに交差浸透して生物化学、経済法学、計量経済学、数学哲学など、新しい学問が出現しており、国力を競う主要部門の科学発展水準が先端、最先端に達している。

1950 年から 2000 年までの 50 年間に、コンピュータの処理スピードが 100 億倍以上も高くなり、1m の 1/10 億というきわめて小さい世界を観察することができるようになった。また、インターネットを通じて、地球の反対側の状況を見たり聞いたりすることができるようになった。世界が到達した科学技術水準を最短期間内に飛び越し、知識経済時代の前列に立つために朝鮮では新世紀の産業革命を行っている。

国が苦難の行軍を行っていた厳しいときに、朝鮮労働党は強国建設のために貴重な資金をまず現代産業の柱である機械工業にまわし、知識産業のモデルを作った。最先端に至っている CNC 技術は、知識経済時代の産業革命を力強く推進している。

CNC 技術の覇権を握った経験に基づいて朝鮮では最先端突破戦で人民経済のすべての部門で科学技術と生産、知識と経済の一体化を高い水準で実現している。

国の経済を知識経済に一新させるための新世紀の産業革命は、近い将来に全般的国力を強国の水準に引き上げ、人民生活の向上で画期的な転換をもたらすであろう。

民族の第一の財貨である一心団結を強化し、不敗の軍事力を打ち固め、新世紀の産業革命を進めていく道、強国

への道は崇高な愛国、愛民の意志を所有した優れた指導者の犠牲的な献身と労苦によってきり開かれた道、変わりなく行くべきチュチェの進路である。

「一生涯ひたすら祖国の富強・繁栄と人民の幸福のために自身のすべてをささげながらも、自身のためには何も残さず、瞬時も休むことなく超強度の強行軍の道を歩みつづけ、走行中の列車の中で殉職した金正日同志のような指導者はこの世にいません」

金 正 恩

4.　先軍時代語

長い人類史には、一定の特徴と基準で分けられるそれぞれの時代が存在してきた。

労働道具の発展によって区分された石器時代、青銅器時代、鉄器時代とか、社会階級関係によって区分された奴隷時代、封建時代、資本主義時代などがその代表例である。

20 世紀の後半期、朝鮮では歴史に存在した他のすべての時代と根本的に異なる、新しい時代が生まれた。その新しい時代とは先軍思想によって開かれる先軍時代である。

先軍思想の創始とその本質的内容については前章で記述したため、ここでは略する。

徹底した反帝自主の思想、愛国、愛族、愛民の思想である先軍思想によって開かれた新しい時代―先軍時代は、それを特徴付ける多くの言葉も生んだ。

ここではその多くの先軍時代語の中で、朝鮮を一日も早く経済強国、文明強国に建設しようと金正日総書記がささげた愛国的献身と労苦と関連した言葉だけをお話しようとする。

歴史上のどの時代にも、どの字引でも見たことのない先軍時代語を通じて読者たちは、朝鮮が前例のない苦難と試練を乗り越えて強盛・繁栄の道にどのように入ったかを知るよ

うになるであろう。

また、民族の父親である金正日総書記が涙ぐましい献身でもたらした強固な土台があるため、朝鮮が強国として浮上する日も遠くないということを確信するようになるであろう。

1） 超強度現地指導の強行軍

強度の高い強行軍を一日でも一ヶ月間でもなく、数百日、数千日も続けるということはまずは想像しがたいことである。

しかし、朝鮮人民の偉大な指導者—金正日総書記は、熱い愛国、愛民の意志を持って超強度の現地指導強行軍を絶え間なく行った。

金正日総書記は次のように述べている。

「わたしは、限りなく繁栄するわれわれの社会主義祖国、その懐でいっそう張り合いのある幸せな生活を送る人民の姿を思い浮かべながら、どんな苦労もいとわず仕事に励んでいます」

1999 年、強盛国家建設の雄大な設計図を示した金正日総書記は、軍隊と人民にこのようにアピールした。偉大な金日成同志の時代にはチョンリマ（千里馬）に乗って駆けてきたが、新しい先軍時代には、駿馬に乗って駆歩でひた走りに走らなければならない、駆歩でひた走りに走って当面の目標を達成した後は襲歩に移り疾風のごとく走らなけれ

ばならない、と。

前進の速度を非常に高めて富強な祖国建設の膨大な目標を最短期間内に達成しようという総書記は、燃えるような情熱で現地指導の道をたゆみなく歩み続けた。

人民経済の先行部門の連合企業所から小さな地方産業工場にいたるまで、全国各地の工場、企業所、農場をみな訪ねた。その日々に企業所と農場が社会主義的競争の中で生産と経営の主体性と自立性、現代化の水準をはるかに高めるよういちいち指導した。

いたる所に果樹基地と畜産基地、養魚基地、サービス基地、文化生活基地を新たに作って人民の幸せをより大きくし、平凡な労働者、農民の家庭も訪問しては肉親のような愛と情を注いだりした。

中央と地方の大学と中学校、科学研究機関も訪ねて発展する時代の要請にふさわしく国の教育科学を発展させる方途を明らかにした。

各育苗場をはじめ、森林経営部門の活動も現地指導しながら、全国を緑林化、園林化の実現された社会主義の桃源郷に作り変える明るい道を開き、先軍時代を先導し代表する名作が創作されるよう文学芸術部門も現地で指導した。

金正日総書記がこのように現地指導した単位はその数が一年間だけでも数百にのぼり、祖国の津々浦々を訪ねた列車行軍の距離は、2009 年だけでも 1 万里あまりであった。

総書記の現地指導はこのように訪ねる単位数とその距離において、指導する分野の幅において類のない超強度の強行軍であった。総書記の現地指導はそのスピードにおいても想像を絶するものであった。総書記は一日の間に幾つの単位を休みもなく指導し、強盛国家建設で提起される問題を解決しようと一晩中に東海岸から西海岸へと、首都から西北地方へと100里あまりの現地指導の強行軍を続けた。

強盛国家建設の高い目標を一日も速く達成しようと国の随所、経済文化建設の各部門と単位を駆歩で、襲歩で訪ねる総書記の現地指導は、言葉通りの超強度の強行軍であった。

金正日総書記の超強度の現地指導強行軍を特徴付ける先軍時代語には、100余里強行軍、吹雪の強行軍、三伏の強行軍という言葉もあった。

100余里強行軍

この言葉は、偉大な金正日総書記の平凡な一日の現地指導の道のりを表現する代名詞である。

2009年2月、人民の食べる問題を解決しようと興南肥料連合企業所を訪ねた総書記は、企業所の現代化に必要な設備が未到着なので生産工程を完成せずにいるという報告を受けた。

総書記はどうしても自身が直接行って特注の設備をよく作ってあげるよう課題を与えなければならないといいながら、

2 月の酷寒の中を夜中に 100 余里も走って楽元機械連合企業所へ行った。企業所に到着した総書記は、真っ直ぐに特注設備の俯瞰図がある所へと行き、企業所の幹部たちに設備を必ず期限内に作るよう懇切に頼んだ。

担当した幹部に課題を与えることもでき、電話で対策を立てることもできたはずだが、昼も夜も肥料問題、食糧問題で心労したため、深い夜中に 100 余里の道を走ったのである。

ある時は現地指導を終えて首都へ帰る途中、会えずに来たある工場の幹部と労働者たちのことが気にかかって、100 余里の道を逆戻りして彼らに会い、愛と信頼を与えて偉勲へと励ました総書記であった。

東海岸から西海岸へと、首都から北方へと、道から道へと絶え間なく続けられる総書記の一日 100 余里の現地指導強行軍は、難関が重なるほど提起される課題が多いほどもっとその強度が高くなった。

愛国の信念と意志で行った総書記の一日 100 余里の強行軍は、先軍朝鮮に飛躍をもたらし、新しい時代の伝説として軍隊と人民の心に深く刻まれるようになった。

吹雪の強行軍、三伏の強行軍

人民生活の向上を最大の重大事、最高の闘争目標と押し立てた偉大な金正日総書記は、季節や気候にこだわりなく、昼夜を分かたずに人民の理想を花咲かせるために現地指導

の道を歩み続けた。

ある年の冬、金正日総書記が金策製鉄連合企業所を訪ねたその道で茂山鉱山連合企業所へと行った時のことである。零下 20℃の寒い日に自ら鉄山峰にまで上った総書記は、前進する冶金基地にもっと多くの精鉱を送ろうと鉱夫たちに熱く呼びかけた。

2010 年 1 月には、新年初の現地指導で零下 30℃まで下がる熙川発電所の建設現場を訪ねた。吹雪の中を走ってきた車は霜氷で真っ白になり、100 数十里余りの遠い強行軍で体が固まった総書記はすぐには車から降りることができなかった。疲れていて体調がよくなかったが、総書記は軍人や人民が心配するだろうと思って、何もなかったように明るい微笑を浮かべて車から降り、建設者たちに熱い挨拶を送ったのである。

総書記の偉大な献身と崇高な志、限りない愛情は強盛国家建設の前哨である熙川発電所の建設者たちを大いに励まし、彼らを新しいチョンリマ(千里馬)速度、熙川速度の創造へと呼びかけた。

このように吹雪をかき分けて訪ねた大規模の工業基地と発電所の建設現場、人民サービス基地はどのぐらいであろう。訪ねた所では幹部たちと科学者、技術者、勤労者に力と胆力を抱かせ、偉大な心臓で彼らの愛国の熱情を発揮させ、強盛を目指す祖国の前進に拍車を加えた。

人民は祖国の運命であり未来である総書記がどうにか冷

たい雪道を歩かないよう懇切に願ってやまなかったが、総書記の吹雪の強行軍は生涯の最後の年である2011年にも続けられた。

年初にも冷たい雪風の吹く中でガラス瓶生産基地を訪ね、続けて各道の多くの工場や企業所、科学研究単位、人民の文化情緒生活基地を現地で指導した。

一年の寒さがもっと厳しくなる 12 月にも総合的な芸術情報基地と商業サービス基地をはじめとして、各単位に対する現地指導を続けた。

寒い冬の日にもかかわりなく祖国の随所を訪ねる偉大な金正日総書記の現地指導は、酷暑の三伏の期間にも続けられた。

朝鮮では昔から一年中、一番蒸し暑い時を、初伏、中伏、末伏に分け、この期間を三伏期間と言っている。余りの暑さが耐えがたいというところから「三伏の期間には、唇にくっついている飯粒さえ重い」ということわざも生じたほどである。その三伏の期間に総書記は、汗をかきながら機械工業部門の重要工場と軽工業工場を始め、人民経済の各部門や単位を現地で指導したのである。

2011 年 7 月には、酷暑の中で平壌第 1 百貨店の商品展示場を長い時間にわたって見回りながら人民の好みや時代的美観に合う商品をたくさん生産して供給するようにと懇切に言った。

多くの国の国家首班や人々が暑い時期には避暑地へも行って休養をし、朝鮮人民もまたこの期間には三伏の日程を守りながら海水浴場や遊泳場、遊園地で暑さを避けたりする。

しかし総書記は、より強盛する未来をもたらすために酷暑と梅雨が重なっている三伏の不利な日々にも現地指導の強行軍を続けたのである。

祖国と人民のための千辛万苦を楽としながら全国を訪ねまわる総書記の強行軍精神は、強盛国家建設に立ち上がった千万の軍隊と人民の精神力を昇華させ、総書記の強行軍の道に沿って先軍朝鮮の全盛期が開かれるようになった。

2） 野戦式生活

世界の政治史上には一国の政治指導者、あるいは軍の総司令官が戦時でもない平時に野戦生活をしたという事例がない。どの偉人伝にもない野戦式生活というこの言葉は、祖国と人民の安寧、幸せのために絶え間ない労苦をささげている総書記の愛国献身を現す言葉である。

暴虐きわまるアメリカ帝国主義と対抗して、社会主義の赤旗を守りながら人民の理想を実現しようという高い闘争目標を打ち立てたがゆえにもっと苦難と試練の多い朝鮮革命であった。

その苦難と試練を総書記は「突撃前へ！」ではなく、「わたしに続け！」というスローガンの下に、先頭で乗り越えなが

ら野戦式に働き、生活した。

1990 年代の後半期には帝国主義連合勢力のかつてない圧殺策動を打ち破って社会主義を守り抜きながら、2000 年代には全人民を社会主義強国建設へと呼びかけようといつも現地指導の道にいた。

総書記は現地指導の道を走る車や列車の中でうたた寝で疲れを癒し、握り飯で食事に代えたりした。総書記は、わたしが休むと祖国の前進がその分だけ遅くなる、人民のためにもっと多くの仕事をしなければならないのに、時間が一秒一秒流れていくのがもどかしいと言いながら、うたた寝を疲労回復の最良のものと思った。また、握り飯は手間も多くかからず準備するにも簡単でありどこでも食事のできる、時間をあまり要せず他人に迷惑をかけなくて済む革命家の理想的な途中食事であるといいながらそれを好んでいた。その握り飯さえ多忙な現地指導の日程により食べることができなかった時が一度や二度でない。

偉大な総書記の野戦式活動気風、生活気風は、外国訪問の日々にも変わりがなかった。走る列車の中で外国の人々と談話を交わし必要な資料も研究しながら夜を明かした。訪問期間、昼食の時間を短縮し、分と秒を分けてもっと多くの対象を見てもっと多くの人々と会うために頑張った。総書記も人間であったため疲れて休みたい時もあったであろう。総書記も誰より家庭と生活を愛していた。しかし人民と人民軍将兵たち

を何よりも貴重に思い、心中にいつも抱いていたため、個人的なすべてをみな犠牲にしながら彼らのために献身奮闘したのである。

一身をそのままろうそくのごとく燃やし尽くしながら祖国の富強・繁栄と人民の幸せのために昼夜を分かたず献身していた総書記は、人民を訪ねていく野戦列車の中で偉大な生を閉じた。

世界の政治史上かつてなかった野戦式生活という先軍時代語は、総書記の偉人像を人々の心に刻みつけ、社会主義強国建設のための総書記の犠牲的な献身があって先軍朝鮮の今日があり、繁栄する明日があるということを再び悟らせた。

「わが国、わが祖国に一日も早く社会主義の強盛大国を建設していかなる敵も手出しができないようにし、全人民が何の気苦労もなく幸せに暮らせるようにすることが、まさにわたしの構想であり、確固たる決意です」

金 正 日

5.　花咲く人民の幸せ

2009 年 4 月、平壌では強国建設の転換的局面を迎えた朝鮮人民の必勝の気概を誇示する「強盛大国の花火」という祝砲夜会が盛大に行われた。

壮快な爆音とともに様々の花火が奇妙な技を見せびらかし、夜空に神秘な光景を開いた。祝砲夜会の試験発射があった 2 月のある日、総書記は、あの花火の壮麗な色のように、朝鮮人民に万の幸せを享受させようというのがわたしの決心であるといった。

一気に数十万発の祝砲を打ち上げる 4 月の壮快で華麗な祝砲夜会は、母なる党が人民に与える万福がどういうものであるかを物語るようであった。

愛する人民にこの世に何もうらやむもののない満ち足りた暮らしをさせることを一生の理想とした偉大な総書記の労苦により、この地には人民の幸せが祝砲のように花咲いている。

1)　食、衣、住の福

一般的に福といえば生活での満足とそこから来る喜び、楽しみなどを言う。

人々は昔から福について言う時、食、衣、住の福は欠かせなかった。

食、衣、住は人々の生存と切り離せないように結びついており、食、衣、住の福を抜きにした人々の幸せ、ひいては社会の発展について論じることができない。それゆえ、政治の是非も人民の食、衣、住、生活を見ればわかるのである。

朝鮮労働党は創建当初から人民の食、衣、住の生活を責任を持って向上させてきた。

人民生活の向上を自分の活動の最高原則として押し立て、そのために投資を惜しまない朝鮮労働党の施策の下、朝鮮人民は日に日に向上する食、衣、住の生活を営みながら幸せに暮らしてきた。

そういう中で朝鮮人民が去る世紀の 90 年代の後半期に食糧難を初め生活上困難をなめながら、苦難の行軍を行うようになった。人民の生活を向上させることは引き伸ばすことのできない強国建設の重要な要求として提起された。

困窮欠乏に耐えながらも変わりなく党を従っている、愛する人民の生活を向上させるために、金正日総書記は軽工業と農業を強国建設の主な攻撃方向に定めた。

総書記は帝国主義連合勢力と銃声、砲声のない戦争を行う中でも手間をかけて人民生活を向上させるために貴重な種を撒いた。

総書記が昼夜兼行の絶え間ない現地指導を行いながら、

人民の生活向上のために撒いた貴重な種が一つ一つ充実した実を結んでいる。

食べる問題、食糧問題の解決展望が開かれている。

人民生活において基本は、食べる問題の解決であり、そのためには穀物の生産を引き上げ、畜産と果樹業、水産業を発展させなければならない。

朝鮮では、穀物の生産を増やすために、農業生産の基本条件である土地と灌漑用水問題を解決し、新しい農業革命方針を打ち出して貫徹している。

1998年から5年間、江原道と平安南北道、黄海南北道をはじめとする各道と市、郡で段階別に、本格的に行われた耕地整理により、数十万ヘクタールの国土が大規模の規格田圃になった。数段階の自然放流式水路工事が行われた国に一万 km にのぼる水路が新たに生まれ、穀倉地帯の農業用水問題が円滑に解決されるようになった。これとともに種子革命方針、ジャガイモ栽培革命方針、二毛作方針、大豆栽培方針など、党の新しい農業革命方針が提示され貫徹されて、農業生産の確固たる成長を保障するしっかりした土台が築かれるようになった。

とりわけ、二毛作面積の拡大と山間地帯での三毛作経験の創造、環状循環生産システムの確立、多収穫品種と複合微生物肥料による単位当たりの収穫高の向上などにより食糧生産を増やしうる展望がより明るくなった。

白米のご飯に肉汁を食べながら生きようという人民大衆の要求を実現する上でも成果が達成された。

苦難の行軍の以降、生産を中止していた畜産基地をただ復旧ではなくより現代化して稼動させるための事業を進めながら、最新の科学技術に基づいて生産と経営活動を行う養豚工場、養鶏工場、アヒル工場、種畜場を国の各所にたくさん建設した。

だけでなく人民の多様で高級な食生活上の要求を充足させるために、牛牧場とダチョウ牧場、すっぽん工場も建てている。近代的な大規模のチョウザメ養魚システムがつくられ、チョウザメ、虹鱒の海水養魚での成功など、養魚業が最先端を突破した。東海地区にはサケのような高級魚族の研究と養魚、加工が一体化された総合的な養魚研究所が立ち上がった。山間部、平野部を問わずどこにも可能な所には養魚基地がつくられ、淡水魚の生産もうんと伸びている。

党政策の正当性は、人民のお膳の上で現れるべきであるといいながら、社会主義防衛戦の厳しい日々に党が一つ一つ手間をかけて築いてきた農業と畜産の土台があるため、人民の食生活は日々豊かになっている。

大規模のモデル果樹基地である大同江果樹総合農場と大同江果物総合加工工場が建てられ、果樹農場が面貌を一新することにより、果樹の現代化、集約化、専門化水準がはるかに高まった。こうして季節にこだわらず人民に各種の果

物を供給しようという党の愛がたわわに実り、家々に喜びと幸せを増している。

それればかりではない。

三日浦特産物工場をモデルとして各道に総合的食品工場を新築し、既存の穀物加工工場、食品工場を現代化し生産を正常化している。

毎年中央と道で盛況裏に行われる民族料理祭典と、首都と道、市、郡の給養サービス基地を通じて日を追って改善されつつある人民の食生活の水準を垣間見ることができる。有名な平壌冷麺と肉の盆そば、すっぽん、サケ、チョウザメ、鶉の料理を始め、各種の料理をサービスする玉流館料理専門食堂は、朝鮮人民の食生活水準を直観的に、集中的に見せている。

人民の着る問題の解決と必須品、日用品の生産でも成果が挙げられた。

既存の中央、地方の紡織工場、製靴工場、日用品工場が現代的に改築、新築されて日増しに増大する一般消費財にたいする需要を国内で生産保障しうる土台が築かれた。

稼動を止めていた2・8ビナロン連合企業所が改築されてチュチェ繊維であるビナロンが多量生産され、各種の製品生産が始まったのは、着る問題、必須品、日用品生産で画期的な転換となる。

軽工業製品生産の活性化とともに商業サービス基地も近

代的に改築、新築し、商業サービス活動があくまでも人民的なものになるようにして、人民への施策が一つ一つ実際にゆきわたるようにしている。

党の人民的施策と自立経済のしっかりした土台があり、人民生活と関連した部門の働き手、労働者の高い闘争熱意があるがゆえに、人民がより豊かで文明的な生活を営む日は遠くない。

苦難の行軍の痕跡をきれいに無くし、祖国の随所に社会主義の仙境町、仙境村がそれこそ雨後の筍のように立ち上がって、朝鮮人民の住宅生活の条件が改善されている。

そもそも朝鮮では国家が毎年住宅を作って人民に無料で与えることにより、自分の家を持って幸せな生活を営もうという人民の念願が基本的に満たされてきた。国家では新世紀にもっと高まる人民の文化情緒的要求に即して都市と農村で現代的な住宅建設を進めて社会主義の仙境を開いた。短い期間に平壌市に新世紀を象徴する数千世帯の万寿台通りと倉田通りの住宅街をはじめとして新しい住宅が随所に立ち上がり、地方都市にも立派な住宅がたくさん建設されている。

都市だけではなく、農村でも一年に数百棟の仙境村が競いながら姿を現している。豪壮な瓦葺の家が立ち並び、裏山にはとりどりの果物の木が香りを放ち、前には豊かな田野と規模的な養魚場が開かれている黄海北道瑞興郡泛雁里村と沙里院嵋谷里の村のような社会主義仙境が山間部、平野部の

どことなく競争的に生まれている。

労働党時代の桃源郷、社会主義仙境で今日には神仙ではなく、平凡な労働者、農民、事務員たちが暮らしている。

国家が毎年数万世帯の住宅を作って人民に配慮している国は地球上に朝鮮だけである。

「福祉社会」という資本主義社会では日増しに悪化されているのが人民の住宅事情である。南朝鮮を見ただけでも1431万世帯の中で半分が越える806万の世帯が家無しの貸間暮らしをしており、特にソウル市民である場合 23～27 年間賃金を貯蓄してこそやっと自分の家を買うことができるため、多くの人々が 0.7～2 ㎡ほどのバラックの家で苦しく生活しており、それさえも一月平均 21 万ウォンの家賃を出している有様である。

朝鮮人民は地球上のどの国の人民も享受できない福、彼らの理想となっている住宅の福を享受している。

幸せな食、衣、住、生活に対する人民のいろんな理想が一つ一つ、現実として開かれている。

2001 年 12 月、偉大な金正日総書記が現地指導の道で、ある機械工場を訪ねたときのことである。二十歳前後のうら若い青年が総書記のところに来て、送ってくれた鶏と卵をよく食べたと感謝の挨拶をあげた。

総書記の細心な関心と賢明な指導の下に立ち上がった家禽基地が力を発揮し始めたのであった。彼の挨拶を受け

た総書記は、満面に明るい微笑を浮かべ、人民が喜べばそれ以上嬉しいことはない、人民が享受する幸せと喜びの中にわたしの幸せと喜びがある、最近は夜を明かして働いても疲れずかえって力が湧いてくるようだ、と言うのであった。総書記の言葉を聞きながら、日に日に大きくなる人民の幸せと喜びがどのようにもたらされたかをお察しできるであろう。

2） 万福が訪れる

朝鮮の諺に「馬に乗れば馬子が欲しくなる」という言葉がある。これは人間の欲望にはきりがないということの意味である。

人々は食べて、着て、住宅を利用しながら暮らすことに対する要求以外にも、国家と社会、自分自身の尊厳と権威、健康と発展のための多くの要求を提起する。こうした大小の多くの要求を円満に満たしながら暮らすとき、万福を享受するというのだが、一つの国や民族がこうなることは決して容易いことではない。だからといって絶対に不可能であるのでもない。

以下、朝鮮人民が享受している福について紹介する。

人民大衆にとって、福の中の福は、国の主人、強国の主人になることである。

国の主人にならなければ、人間の生存と発展のために提起される社会的・政治的要求と物質的・文化的要求の中でどの一つもまともに実現することができなくなる。強国を建設で

きずに外部勢力の支配と干渉を受けている国と人民は、獣にも劣る身の上となる。

朝鮮人民は、早くから国家と社会の真の主人となった。多くの人民が世紀にわたって願いながらも実現できなかった社会的・政治的要求を実現したのである。

朝鮮人民は、尊厳のある思想強国、政治強国、軍事強国の人民となった。

彼らは人間の尊厳と価値を輝かせ、張り合いのある生の道、国と民族の永遠な発展と繁栄の進路を明らかにする徹底した自主の思想—チュチェ思想を持つことにより、精神的彷徨と決別する幸運をになうようになった。多くの人々が天上の神様に運命を託して精神的貧困の中で彷徨しているとき、朝鮮人民は自分の運命を自分の手に捉え、信念も高く、まっすぐに前進したのである。

朝鮮人民は分裂と対立、戦いの絶えない人類史上はじめて、領袖、党、軍隊と人民が一つの意志と情で固く結束した一心団結の偉大な伝統を生かして万民の驚嘆を呼び起こした誇りも持っている。

偉大な思想、偉大な団結で万難試練を乗り越えながら、いかなる大敵も敢えて手出しができない軍事強国建設という民族の宿願を実現した。

税金と学費、治療費という言葉さえ知らない幸せな人民がほかならぬ朝鮮人民である。

全民が税金を知らずに暮らし、一生涯無料で学び、治療を受ける。

食糧難、燃料難、動力難で国が困難をなめていたときにも全般的無料義務教育制を中断なく実施し、門を閉めた学校は一つもなかった。教育の発展と科学技術発展のための国家的関心は深くなるばかりである。

平凡な女性の出産のためにヘリコプターが飛び、生命の危ない人のために国で非常措置を取り、全民を予防治療するチュチェの社会主義の保健的施策は、昨日も、今日も、無病息災しようとする人民の念願を実現させている。

チュチェの社会主義祖国に生まれた生命はみな貴重にし、惜しみなく千万金を注ぎながら真心を尽くしていく国の恩恵の大きさを見せる資料のうち一つを紹介する。

ある採石場で働いていた労働者が思いがけない事故により致命傷を受けた。

年齢:26 歳、診断:重症脳挫傷、頭蓋骨骨折、気管支肺炎、

この事実が党中央に報告されて国家的な非常措置が講じられた。中央病院に移送されて青年は 15 日目に奇跡的に蘇生した。患者の蘇生のためにこの間、国家から施された配慮は実に大きかった。

— 患者の移送に動員された運輸機材:

ヘリコプター1 台、大型旅客機、その他救急車、

— 患者の治療と移送に動員された機関:

端川市人民病院、平壌医学大学病院、朝鮮人民軍航空区分隊、朝鮮民航、

— 患者の治療のために作った医療集団の構成:
元士、教授、博士など 10 余名
医者、看護員 10 余名

— 患者の治療に使われた薬品の種類
麝香、大幅抗生剤をはじめとする高価薬 72 種

— 患者に輸血した血液
5.7L(人間の体には 5L の血液がある)

— 治療費総額
約 15 万ドル

1984 年南朝鮮に水害があったとき、アメリカと日本が罹災民の救済金としてやったお金が合わせて 12 万ドルという事実と比べるとき、一人の生命のために共和国が取った措置は実に想像に絶するものである。

朝鮮人民は愛と信頼、信義の倫理が支配する国で暮らしている恵まれた人民である。

昔から百姓は善政の下では善人になり、悪政の下では悪人になるといっていた。

革命の根本的目的を人間に対する愛を実現するところに置いている朝鮮労働党の愛と信頼の政治により、朝鮮は全国が睦まじい一つの大家庭をなしている。

朝鮮人民は指導者を父親としていただいた大家庭の中

で、喜びも、悲しみも分かち合い、助け合い、導きあいながら、仲よく暮らしている。

両親のいない孤児たちを自分の子供のように、身寄りのいない老人たちを実の両親のように見守り、青春の男女が戦傷栄誉軍人たちと一生をともにし、社会全体が彼らを助けてやることが日常生活のようになっている。思いがけない事故により一身が危ない中でも、先に戦友たちと同志たちを考え、自分を犠牲にする人々もたくさんいる。まったく知らない人であっても誠心誠意助け合っている。

労働新聞（2013．4.27）に載った一つの記事が、互いに助け合う、美しい社会的気風の一端をよく見せている。

2012 年 12 月、康翎半島の周囲にある巡威島のリ・グムオク女性とある青年は、貝取り作業の途中、嵐にあって海に漂流するようになった。

漂流する彼らの船を発見した朝鮮人民軍海兵たちは、救出作戦を敷いた。小船の近くまで行ってからまた何回も波に流されると海兵たちは氷の海に飛び込んだ。苦労を重ねた挙句やっと彼らを救い出し、即時救急対策を取って軍部隊の病院に移送した。60 日間、軍医所では医者、看護婦、海兵たちが彼らに実の血肉の情を注いで蘇生させ、あらゆる世話をして全快させた。その過程で患者たちの蘇生や治療のために医者たちと軍人たちが傾けた献身についてここでみな書くわけにはいかない。朝鮮の出版報道物、インターネットを見れ

ば、読者たちは朝鮮人民が発揮している美風に多く接するようになるであろう。

朝鮮人民は豊かな文化情緒生活を享受する幸せな人民である。

チュチェ文学芸術は、自主的人間の尊厳と価値を高め、美しいものを志向する人々の感情情緒をより豊かにしながら、日に日に開花発展している。

とりわけ、朝鮮労働党の音楽政治により、朝鮮の音楽は革命的で浪漫的な音楽芸術の絶頂に達している。

失った愛、失った機会を嘆きながら悲哀と厭世に導く退廃的な歌が人々を堕落と自殺へと導いている時、戦闘的で浪漫的な朝鮮の歌は、人々に勇気と楽観を与え信念と意志を植えつける精神的原動力となっている。

国の名山、名勝地ごとに立ち上がった文化情緒生活基地では、人民の喜びと笑い声が溢れている。

竜岳山、七宝山、九月山、長寿山、妙香山、正方山が人民の文化的休息の場として立派に改造され、中央動物園と麻田、白雲山、石岩、松涛園、臥牛島の遊園地が現代化されて、そこを訪ねる人々の波もまた絶えない。首都平壌と地方に公園と遊園地、遊技場と遊泳場が新たに作られて人々の喜びをより大きくしている。龍門大窟と松岩洞窟も発掘され、立派に整備されて人々に喜びを与えている。

何十m、あるいは何百m行ってこそ名所が一つずつあるとい

う外国の有名な自然洞窟とは異なり、龍門大窟は、近いところに名所が集まっており、世界が指定した 11 箇所の名所がみなある、不可思議で美しい洞窟である。龍門大窟の広場と滝はどの国でも見られない自然の奇観である。
錦の山河の天下絶勝と社会的財貨も見せびらかしている洞窟は、朝鮮の地下の名勝、地下宮殿であり、朝鮮人民は地下でも独特の情緒生活を営んでいる。
大小のすべての要求を一つ一つ実現しながら朝鮮人民が享受している幸せは、天が与えた偶然ではなく、母なる党が人民のためにもたらした歴史の必然である。
母親は子供のためなら満足を知らない。
母親は、子供の幸せのために思索を深めて構想も温め、粘り強く実践していく。昨日に次いで今日も、一つ一つ福が増えていく。

「わが党は世界で一番立派な朝鮮人民に依拠して朝鮮式、金正日同志式に、この地に社会主義強盛国家、天下第一の強国を誇らしく打ち立てるでありましょう」

金 正 恩

6.　強国建設の未来

朝鮮人民は現在、帝国主義連合勢力の対共和国圧殺策動を果敢に打ち破りながら強国建設の最後の勝利をめざして邁進している。

愛する人民にこの世で何羨むもののない豊かな暮らしをさせようという偉大な金正日総書記の雄大な社会主義強盛国家建設の目標！今までの闘争を通じて、朝鮮は政治・思想強国、軍事強国建設の地位を占め、これからは経済強国、文明国建設の課題が残っている。

強国建設ですでに収めた成果を強固にしながら最後の勝利を目指して前進している社会主義強盛国家の建設は今日、敬愛する金正恩同志によって導かれている。

金正恩同志が導く人類の理想社会、社会主義強盛国家が建設される未来を朝鮮人民は楽観している。

歴史の中で未来を見ると言っている。

先代の領袖たちの指導の下に自主の道、先軍の道、社会主義の道を歩んできたがゆえに朝鮮人民は他国では数世紀にわたって成し遂げた国家建設の成果を、短い歴史的期間に遂げることができたのである。ひいては人類史上どの国でもなすことのできなかった建国の業績も積み上げた。

世紀的な変革を刻み込んできた朝鮮人民の建国史は、

自主の道、先軍の道、社会主義の道だけが強国への道、勝利への道であることを実証した。

政治的領袖の理念と政治実力は、彼が打ち出す思想と理論、実践によって証明される。

敬愛する金正恩同志は、二年余りの短い期間に十数件の著作を発表した。

その著作において金正恩同志は主席と総書記の革命思想を金日成・金正日主義と定義づけ、全社会の金日成・金正日主義化を党の最高綱領とする歴史的功績を積み上げた。また偉大な金日成同志と金正日同志を朝鮮革命の永遠な領袖として高くいただき、主席と総書記の遺志どおりに強国を建設するための具体的な課題と方途について明確にした。

輝かしい思想理論的英知を所有した敬愛する金正恩同志が先代の領袖たちの思想と偉業を100%継承して、自主の道、先軍の道、社会主義の道へと人民を導く限り、社会主義強国建設の未来は明るい。

金正恩同志はすべてをみな主席と総書記の方式で行いながら、短い革命指導の期間、誰にも例えられることのできない高い政治実力を祖国と世界の前に見せている。

金正恩同志の政治実力と品格を見ても朝鮮の強国建設の最後の勝利は確定的である。

南朝鮮「民主労総」インターネットホームページに載せた

記事を見ることにしよう。

「北朝鮮の金正恩党中央軍事委員会副委員長(当時)は、後継者として公式登場するや否や一躍世界的な名人になった。アメリカの CNN 放送は最近のインターネットを通じて、全世界的な投票で選定する 2010 年の最高 10 大中心人物 20 名の候補に北朝鮮の金正恩将軍を包含させ、12 月 28 日世界的最高関心の 10 大人物に選定した。

…

金正恩将軍を後継者として公式的に選出した後、北朝鮮はより力動的な活力を取り戻し、世界を驚かす出来事を連続的に産出させている。

北朝鮮は、目を見張る経済建設の成果を次々と創造しながらも同時にウラニウム濃縮施設の公開と延坪島砲射撃などで世界に大きなショックを与えた。

この二つの出来事はみな全世界を驚かせた特大型出来事として、金正恩副委員長が後継者として選出された後に収めた一石多鳥の成果中の一部に過ぎない。

北朝鮮はウラニウム濃縮施設の公開を通じて、対北圧迫戦略だけを固執するアメリカに致命的打撃を与えた。

これは北朝鮮がウラニウム核兵器までも含め、アメリカとたたかいうる各種の高性能核兵器を製作、保有したということを技術的に、実物で証明することにより、アメリカが北朝鮮を永遠に勝つことができないということを見せた

のである。

そして自力で軽水炉をはじめとする現代的核原子力発電所も建設し稼動させうるということを見せたことにより、遅延戦術で北朝鮮を経済的に孤立させようとしていたアメリカの経済封じ込め政策もやはり失敗したということを世界に認めさせた。また、北朝鮮の民衆に自力更生を通じた経済的難局の打開と強盛大国の勝利に対する信念を倍加に強めさせた。

政治的に計算されたこうした措置により、北朝鮮は対話を拒否し反北対決にのみしがみついているアメリカを痛烈に殴り、自分の目的と要求どおりにアメリカを避けることのできない協商のテーブルに引っ張り出し、アメリカの誤った対北政策を決定的に変えさせた。

北朝鮮はアメリカだけでなく、北朝鮮に対する世界的認識と見解も変えさせた。

極右翼保守勢力の歪曲された宣伝の影響により北朝鮮がアメリカに屈服するのではないかと憂慮していた世界が、北朝鮮の発展する現実を見て「北朝鮮の経済的苦難」というのが嘘だという事を分かるようになった。

北朝鮮の各部門で世界的水準を超した成果が相次いで創造される現実を見ながら、世界も北朝鮮での強盛大国建設が現実化されていることを認めるようになった。

「韓」半島の緊張を激化させるアメリカと「韓国」の

反北侵略戦争演習に対する北朝鮮の断固対応とその後の伸縮性のある対応は、北朝鮮を明白な勝者、「韓」半島と世界平和の守護者と再度世界に確認させた。

北朝鮮は「韓国」の砲射撃に対応して公の官署と軍の陣地だけを選んで精密打撃することにより、自分の無慈悲な報復の意志と能力を十分に誇示した。

挑発的な延坪島第2次砲射撃の時には予想外に武力対応を自制することにより、砲弾一発も撃たないでアメリカと「韓国」の砲射撃を制圧し、瞬間に「韓」半島平和の守護者となった。

北朝鮮は延坪島問題を囲んだ対決戦で、軍事的に、政治的にみな勝利し世界の前でアメリカと「韓国」を、「韓」半島と世界平和の直接の破壊者として被告席に追い込んだ。

北朝鮮は最高段の霊妙な軍事的対応と政治外交力で世界的支持と共感を呼び起こし、「韓」半島を巡る政治構図を一気に転換させた。

北朝鮮で後継体制が公式化されて 3 ヶ月という短い期間、世界はアメリカを意のままに扱いながら政治体制の強化、国防建設、経済建設など自分のなすべきことをみなやる、北朝鮮の後継者の初の実力を知るようになり、金正恩時代の未来を予想するようになった」

金正恩同志は世界が公認するように多方面的な知識と世界的な眼目、抜きん出た知略と決断性、鉄の胆力と度胸を持って政治、外交、軍事と経済、文化のすべての部門を立体

的に指導し、驚異的な成果をもたらしている。

朝鮮人民が高くいただいているもう一方の先軍の統帥金正恩同志は、先軍の旗を変わりなく掲げて人民軍を政治的・思想的に、軍事技術的に非常に強化していく。

兵士がいて最高司令官もいるといいながら敬愛する金正恩同志は、板門店とム島と長財島など、最前線の哨所と各人民軍部隊を訪ねては将兵たちと肩を並べ、腕を組んで記念写真も撮り、彼らの生活を細かいところまで温かく見守っている。

将兵たちを戦友と呼びながら愛を施し、信頼を与えるその懐で、軍人たちは党と領袖、祖国と人民のために一身をもためらいなく捧げてたたかう、思想的純潔体、組織的全一体として準備している。

敬愛する金正恩同志は、人民軍部隊を訪ねて部隊の戦闘準備を完成するための具体的な方途も提示し、勝利の妙術も教える。そして全軍的な連合訓練と合同打撃訓練、軍部隊の戦闘訓練も直接指導しながら人民軍を無敵の強兵に準備させている。

人工地球衛星「光明星—3」号 2 号機の打ち上げを民族の尊厳をかけて成功へと導いて、主席と総書記の業績を輝かせ、金日成民族、金正日朝鮮の威力を再び世界に誇示した。

軍需工業部門に対する現地指導を行って軍需生産の現代化を最先端水準へと引き上げ、労働者階級の精神力を発

揮させて国の国防工業発展の新たな盛期を開いている。より露骨になっているアメリカ帝国主義の核脅威に対抗して連続打撃、全面攻勢で敵を制圧し、核全面戦も厭わない強靭な意志と霊妙で大胆な作戦および打撃能力を世界に見せた。

アメリカとの対決で主導権を握って巧みな政治的、軍事的対応で強国建設の有利な局面を開き、人民を導いて経済強国の建設で驚くべき成果を収めている。

世の中で一番立派な朝鮮人民が二度と生活に困窮することなく、社会主義栄耀栄華を思う存分享受するようにしようという決心を持って粘り強く実践していく金正恩同志の献身的労苦により国の姿は見違えるほど変わっていく。

国産化された最先端技術に基づく工場が次々と立ち上がり、平壌民俗公園と綾羅いるか館、人民野外アイス・リンク、統一通りの運動センター、人民劇場、万寿橋食肉店と普通江水産物店、ヘダンファ館、柳京ヘルスセンター、平壌国際サッカー学校、平壌市の各区域の公園をはじめとする文化サービス基地が一年あまりの短い期間に建設されている。

最先端科学技術開拓者の創造精神、闘争気風によってナノ技術、情報技術、生物工学技術のような中核基礎技術分野で驚異的な成果が達成されている。斬新で戦闘的な牡丹峰楽団の出現により音楽芸術発展の新しい境地が切り開かれ、彼らの創造気風に見習って全国に激しい創造の熱風が巻き起こっている。

新種の芝生を植える事業をはじめとして国の緑林化、園林化が本格的に推進され、都市と村の面貌が日増しに変わっている。

人民の幸せのために献身し、謙遜で大らかで慈愛深い金正恩同志の人民的な品格は社会の一心団結を新たな水準で打ち固めている。

人民の利益を最優先、絶対視し、人民を真心で愛し、隔たりなく対しながら彼らの心を引き付ける親和力を持っている。

民族の慈父を失った痛恨事の期間にも人民が寒さを感じないように関心を払い、首都の市民に魚を供給する対策まで講じ、平凡なスポーツマンの海外治療を配慮した。

一年間だけでも首都に立派な住宅をたくさん作って労働者、事務員に配慮した。新入居した家庭を婦人とともに訪問して祝賀もし、準備してきた家庭用品もプレゼントしながら彼らの喜びをもっと大きくしてくれた。

人民の遊園地を訪ねてはみずから舗装道路の隙間に出た雑草もとりながら、幹部たちに人民に対する献身的奉仕精神を所有するよう諭し、何を一つ作るにしても「先便利性、先美学性」の観点で人民にいささかの不便も与えないようにと強調もする。

金正恩同志は子供たちを特別に可愛がっているが、0歳の子供や幼稚園の子供、少年団ネクタイをかけている子供など、会う子供はみな懐に抱いて愛撫もし、親しく話も交わしながら

記念写真も撮ってくれる。

母は足りない子、厄介な子供だからといって決して捨てることがなく、まともでない子供であるほどもっと心配し、心を使うといいながら、家庭周囲環境、社会政治生活経緯の複雑な人々も関係なく、党を従う人であれば、誰でも温かく抱きこんで見守っている。

喜びと幸せを与え、希望を花咲かせながら心の痛みも見極めてくれる金正恩同志の人徳政治、広幅政治により、厳しい時期に越境していた人々も再び祖国に戻っており、軍人と人民が党の周りに一つの心、一つの志でもっと固く結束している。

金正恩同志の熱い人情、海のような度量は、軍隊と人民の精神力を発揮させて、強盛国家建設へと促す原動力となっている。

それで朝鮮人民は親しい金正恩同志をいただいたがゆえに、山河はもっと温かく、英明な指導者をいただいたがゆえに未来はもっと明るいと歌っているのである。

朝鮮人民は党と領袖に忠誠を尽くす人民、自力更生の伝統を輝かせてきた誇らしい人民である。

彼らは白頭の密林で自力で延吉爆弾を作り、百万の日本帝国主義を打ち破って祖国解放をもたらし、アメリカの武力侵攻を退けて第2の解放の日を向かえた。朝鮮人民はチョンリマに乗って数世紀を飛躍して14年間で工業化を実現し、自主、自立、自衛の社会主義を立ち上げる奇跡を創造した。

先軍の道で自力更生の力により帝国主義連合勢力の圧殺策動を打ち破り、先端、最先端突破の奇跡をもたらした英雄的人民である。

チュチェ思想の祖国で延吉爆弾の歴史と「チョンリマ時代の叙事詩」を学びながら育った朝鮮人民、日に日に世人を驚かす奇跡と偉勲を創造する朝鮮人民に達成できない目標、乗り越えない難関はない。

偉大な領袖がおり、偉大な人民がいるがゆえに、社会主義強盛国家建設の前途は明るい。

社会主義の強盛国家建設

著　者：李正花

発行所：朝鮮民主主義人民共和国

外国文出版社

発　行：チュチェ103 (2014) 年 6月

ㄱ-483550

E-mail:flph@star-co.net.kp

http://www.naenara.com.kp

ISBN 978-9946-0-1127-1
9 789946 011271 >

朝鮮・平壌

チュチェ103（2014）年